



創立 30 周年記念誌



西東京三田会

創立30周年記念誌



演説創始の館

村田高明会員

西東京三田会



目次

西東京三田会会長ご挨拶 1

西東京三田会創立30周年を祝って 2

 慶應義塾長、慶應連合三田会 会長

 西東京稲門会 会長、東久留米三田会 会長、小平三田会 会長

基礎を築いた方々のご挨拶 7

 斎藤毅、田中清、奥村榮吉、高梨勇一、直井徹也

西東京三田会30年の歩み 12

 30年の歩み概要

 30年の歩み年表

西東京三田会の活動 20

 親睦・相互扶助 22

 総会・懇親会、新年会、新入会員歓迎会

 サークル活動 27

 ゴルフ会、写真・作品倶楽部、グルメ会、ハイキング会

 麻雀の会、カラオケ会、ブルーベリー摘み会

 たけのこ堀りを楽しむ会、市内歴史散歩会

 素焼き人形を作る会・木の枝で人形を作る会

 その他実績のあった親睦会

 地域活動・塾との連携・近隣友好会交流 44

 ANA見学支援、自主企画と依頼事項

 塾への協力や呼応活動、近隣稲門会や三田会との交流

西東京三田会 会員の「こえ」（寄稿） 50

諸資料 72

 奥村榮吉さんの回顧記、会則、歴代役員任期一覧表

 西東京三田会の広報活動、29年4月現在役員

 29年度初の会員名簿

西東京三田会会員名簿、編集後記 80

30周年記念誌の刊行にあたって



温故創新：共に祝おう“記念の一日”

西東京三田会 会長 坂口 光治

西東京三田会創立30周年を迎えるに当たり、ここに「西東京三田会30周年記念誌」を刊行することは、私ども会員一同の大きな慶びであります。1987年発足の旧田無三田会に始まり、1994年に拡大再編された田無・保谷三田会を経て、両市が合併した2001年に現在の西東京三田会となり、今年おかげさまで30周年を迎えました。

故人となられた初代の会長の斎藤達様、2代目の増田純一様、3代目の市川昌夫様はじめ西東京三田会の創立・発展に物心ともにご尽力いただきました歴代の会長、役員、それを支えて下さった会員の皆様に敬意を表します。また塾員センター、近隣三田会、西東京稲門会、西東京市及び教育委員会など、関係者や諸団体の皆様にも心から感謝申し上げます。

今日の大きく変化する世界や地域社会の中で、歴史や伝統を深く顧みると共に、未来を展望し新たな道を切り拓いていくことは車の両輪であります。慶應義塾に学んだ塾員として、「先達の歴史に学ぶ」ことを通して、「先導者たる使命」を再確認する作業は、私どもにとって大切な活動でもあります。30年の歴史を記念誌として刊行するのは、情報の共有化を図る「温故創新」の重要な意義があると考えます。

記念誌に合わせ、記念行事が5月20日（土）コール田無で開催されます。「福沢先生は今日“社会”と訳されている Society という言葉を最初“人間交際”（じんかんこうさい）と表現され、人々の交際によって社会は進歩すると考えられた」（清家篤慶應義塾長）と述べておられます。会の魅力を高め、楽しく豊かで創造的な活動を通じて、母校の発展や地域社会に貢献するためには、互いに学び、創造的エネルギーを蓄えることも極めて重要です。

この「30周年記念誌の刊行」と「記念行事・懇親会」が、次の30年の西東京三田会の発展に大きく寄与できるものであると確信しております。記念誌編纂委員会の皆様の献身的なご努力と、記念行事实行委員及び会員の皆様のご協力に心から感謝を申し上げ、刊行にあたってのご挨拶と致します。



西東京三田会創立30周年を祝って

西東京三田会創立30周年をお祝いして

慶應義塾長 清家 篤



西東京三田会創立30周年、誠におめでとうございます。慶應義塾を代表して心からお祝い申し上げます。西東京三田会を、ここまで発展させてこられた歴代会長をはじめ会員の皆様に、深く敬意を表します。

坂口光治会長をはじめとする西東京三田会の皆様方には、平素より慶應義塾が物心両面にわたるご支援を賜っておりますことに御礼申し上げます。誠に有り難うございます。

学校の価値を決めるもっとも大切な存在、それは卒業生です。卒業生一人ひとりが社会のそれぞれの持ち場を少しでも良くすることにどれだけ貢献しているか、そして卒

業生がどれだけ母校を思っているかということです。西東京三田会の皆様の力強いご活躍と母校へのご支援は、その意味で慶應義塾の価値を大いに高めて下さっています。

福澤先生は Society を「人間交際（じんかんこうさい）」と表現されました。人々が交際し触発し合うことで社会は進歩すると考えられたわけです。

皆様の活動もまた、この「人間交際」に象徴される福澤先生のお考えを受け継いでおられることと思います。このことも義塾にとって大変に有り難いことです。

あらためて西東京三田会の今後ますますのご発展と、会員の皆様のご多幸、ご健勝を祈念申し上げます。お祝いの言葉と致します。

西東京三田会創立30周年を祝う

連合三田会長 比企能樹



西東京三田会創立の30年を心より寿ぎお慶び申し上げます。

そもそも慶應連合三田会は、37万人、866団体で構成されています。そのそれぞれが小さな輪であるのですが、これが繋がり、やがては塾と言う傘の下、大きな輪を構成しています。各々の三田会は独立しているのではなく、各地域や社会、出身校、クラブ等々において、他学にみないほどの結束で繋がり、頑張っておられます。

ことに皆様の西東京三田会は、田無三田会、保谷在住塾員という二つの輪が重なって大きく発展されました。双方を結ぶ輪は堅く、30年という長い歳月を経過され、それは四季折々に工夫を凝らされた企画など楽しみな集まりで会員の皆さまが和気あいあいと絆を一層強めておられ敬意を表します。御地は都心の西側に在って、会員の皆さまは、首都での重要な役割に任じられたり、或いは地域を支える大切な仕事で活躍され、慶應という名を背負って活動をお続けのことと拝察いたします。

福澤先生は昔、慶應義塾の同窓の集まりを大切にされ何時でも何処にでも出かけられ親睦の輪の中心におられたと歴史が物語ります。この「西東京三田会創立30周年」の皆さまの集まりの中にも必ず先生がいらっしゃることは疑う余地はありません。

この度は真におめでとうございます。

西東京三田会創立30周年に寄せて

西東京稲門会 会長 古賀良郎

西東京三田会の創立30周年を心よりお慶び申し上げます。



旧田無三田会、旧田無・保谷を経て、西東京三田会の発足以来、「社会の先導者」の使命のもと歴史と伝統を継承し、今日まで発展を遂げられましたことに対し、歴代の会長様をはじめ会員の皆様のご努力とご尽力に心より敬意を表します。

貴会との交流は多岐にわたり、写真・作品展への参加やゴルフ、カラオケ同好会などますます活発となっております。交流を通じ、皆様の「気品の泉源」の精神とチームワークの良さを常日頃痛感し、且つ学ばせていただいている次第です。

長年にわたる積極的な地域社会貢献の活動は、小学生を対象とした企業見学の取り組み、また、東日本大震災や熊本地震などをはじめ、被災地に対する継続的な支援は素晴らしい活動と存じます。西東京稲門会が運営しております「稲門寺子屋西東京」は、貴会の活動を参考に発足した経緯がございますが、当時市長の坂口光治会長様からご賛同と多大なるご支援をいただきました。

これからも『若き血』と『紺碧の空』を高らかに、お互い切磋琢磨して、交流の絆を一層深め、地域社会の貢献に努めたく存じますので、よろしく願いいたします。

貴会のますますのご発展をお祈り申し上げます。

創立30周年を祝して

東久留米三田会 会長 大野貴志夫



この度は、西東京三田会が創立30周年を迎えられましたこと、東久留米三田会を代表して、心よりお祝い申し上げます。会の運営を盛り立ててこられた会員皆様のご尽力に敬意を表します。

西東京三田会は発足以来、様々な活動により会を発展させてこられてきましたが、その歴史は古く、現在、近隣地域三田会ではお互いに交流・協力しながら地域三田会活動を推進していますが、西東京三田会はその中心的な地域三田会となっております。

東久留米三田会も西東京三田会会員の皆様のご尽力のおかげで、平成15年4月に設立することができました。東久留米三田会も様々な活動を通じ「会員相互の交流を図り、地域社会に貢献する」ことを目的として積極的に活動を行っていきたいと考えておりますが、そのためには、やはり西東京三田会会員の皆様との緊密な交流が必要と考えております。西東京三田会会員の皆様におかれましては今後も東久留米三田会会員との活発な交流・ご支援の程、よろしくお願ひ申し上げます。

末筆ながら、西東京三田会の一層のご発展と会員皆様方のご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

創立30周年まことにおめでとうございます。

「継続は力なり」です
～西東京三田会 30 周年を祝って～

小平三田会 会長 田村政義

謹んでご挨拶を申し上げます。



このたび西東京三田会様に於かれましては、創立 30 周年をお迎へになられましたこと誠に喜ばしく、茲に心からお祝いを申しあげます。

西東京三田会様との出会いは 2014 年（平成 26 年）9 月の新入会員歓迎会でした。

ご案内を頂きましたがあまり気乗りもしないまま田無の市民会館の扉を押したところ、会場内の和気藹々のうちにも心地よい一体感と緊張感に溢れた雰囲気新鮮な感動さえ覚え、気分は一転しました。スピーチ中の私語は耳に入らず、ハザードな自慢話もなく、何よりも話し手の話題を参加者に巧みに振り捌く進行役のみごとな才覚に時間の経過を忘れた 2 時間でした。

ひとくちに 30 年と申しますが、その道のりは決して短くなく大変な年月です。他人の心は真に移ろい易く、窮めて集まりにくく、いとも容易く離れていきます。具体的な目標設定と活動成果を評価しにくい非営利活動集団を今日まで継続させている求心力の源は会員皆様の慶応義塾への矜持と感謝の体現であり、「継続は力なり」となり今日に到っていると敬服しております。

末筆になりますが御紙面を拝借いたし小平三田会設立にも多大なるお力添え賜りましたことを改めて御礼申し上げますと共に、これからの西東京三田会会員皆様方の益々のご健勝、ご活躍並びに西東京三田会様のご隆盛を祈念申しあげましてご挨拶とさせていただきます。

基礎を築いた方々のご挨拶

創立功労者 齋藤 毅氏

(創設者メンバー、当会前半の15年間事務局長、S23 経、現顧問)

益々の発展を期待して

原稿依頼を受けてから十ヵ月になるのにまるで捗らない。そうこうしているうちに年末



に西東京三田会ニュースレターが届き、感慨深く拝読した。早いもので田無三田会を創立し西東京三田会を経て既に三十年が過ぎ、五月には記念行事を開催するという。思い起こせば、私が東京都を退職し田無商工会に再就職したのは六十歳前のこと。その後、有志達で田無三田会を結成した。当時は個人情報保護条例が施行される前だったので慶應義塾大学同窓会に卒業生のデータをお願いし、田無在住、在勤の卒業生に田無三田会の趣旨と勧誘の手紙を出し会員を募った。その後、保谷三田会も発足し西東京三田会になった。現在

では殆どの近隣の市に三田会が設立されている。当時は今の様な姿など想像していなかった。現在の活動を見ると多くのサークルが出来、幅広く、家族でも楽しめる活動を工夫して行っていて大変感心している。

丁度昨年三月に坂口会長と役員さん二名が拙宅にお越しいただき、懐かしくも楽しい一時を過ごすことが出来たが、その際も同様の話題に思いを起こした。

私は昨年十二月で九十四才を迎え、特に足腰の弱まりもあり殆ど外出はしていない。愛犬を相手に、楽しく毎日の生活を享受している。合間に時折届く西東京三田会のレターのニュースも読む。本当に気儘な時の過ごし方をしているが、ソ満国境で実戦を体験した非常に変化の大きかった人生には、今の生活が幸せだ。

最後に西東京三田会が今後とも益々発展していくことを心より期待する。

[注：齋藤毅氏が一手に作成された NewsLetter 以前の 4 回の会報から、当三田会草創期を整理された文章を、「30年の歩み」(p12)にも転載利用させていただきました]

第2号所収の第2代増田、第3代市川会長の横で乾杯の音頭をとる齋藤毅氏



第4代会長 田中 清氏

(創設者メンバー、S28工、現顧問)

西東京三田会創設の思いで



昭和60年のある時、増田先輩が「田無には、稲門会があるのに三田会が無いのは寂しい、なんとかつくりたいね」と言われた。考えてみると、田無商工会事務局長の斉藤毅さんや佐々病院の児玉先生・・・等何人かの塾員の方がすぐに頭に浮かんでくる。

「やってみたいですね」と返事をして、一度準備会の名目で会いましょうということになった。

時をへて、増田純一氏・斉藤毅氏・児玉先生と私4人が「末広」に集まって盃を傾けながら早慶戦の話や三田の話・銀座の話に花を咲かせ、出席者全員の総意で是非田無に三田会を結成しようと言う事になった。

名称は、田無三田会発足準備会と決った。4人のうち最年少の私(田中)が事務局を命じられたので、事務所を田無市芝久保町5-4-43 富士記録紙工業株式会社内に置く事にした。

先ず会員の獲得!ということで、田無市在住の知人・友人に声をかけ入会の勧誘をした。斉藤毅先輩には、何度も塾監局へ足を運んで頂き田無在住・在職の塾員住所を調べて頂いた。その調べによると、300名弱の方が田無市に在住・在職されている事がわかったので、田無三田会への入会勧誘の文書を送付した。住所移転や転勤・多忙・病弱等の理由で最初はなかなか会員が集まらず苦勞したことを思い出す。

昭和62年3月に田無三田会発足会を「末広」で行った。会長に斉藤達氏・副会長に斉藤毅氏が選任された。出席塾員は20名弱であったと記憶する。

昭和63年の総会には、増田純一氏寄贈の田無三田会名入り三色旗を会場正面に飾ることが出来、会員数も次第に増加して盛会であった。

平成11年に増田純一氏が中等部からのクラスメート市川昌夫氏(保谷在住)とご相談の上保谷在住の塾員の方々に多数入会して頂き、名称も田無・保谷三田会と改称した。

平成13年田無市と保谷市が合併して西東京市が誕生したので、田無・保谷三田会も西東京三田会と改称した。

その後は、歴代会長、役員の方々のご努力により会員数も100名位に増え、各方面へのボランティア活動・会員親睦の趣味のサークル活動等活発に行事や会合が行われている。今後も会員皆様の努力により西東京三田会が益々の発展される事を心より願っている。

[注：田中氏は病気療養中のため、ご了解を得て、NewsLetter 8 (2011.12.15)所収の<西東京三田会創設の思いで>記事を転載させていただきました]

第5代会長 奥村 榮吉 氏

(当会活動の基礎確立、S27文・S29経、現顧問)

これからの三田会

私は次の二つを主張してきた。慶應義塾に貢献しよう、地域の住民に役立とう。どこの三田会でも同じであろうが、この二つが会の存在意義・ドメインであろう。



前者としては、東久留米三田会・小平三田会の設立を提案し、協力し成果を上げた。次は小平三田会・国分寺三田会と協力して小金井三田会を作ることであろう。

後者としては、市民を対象とした食料・医療に関する講演会を三回開いた。何れも毎回100人以上の市民が参列した。これには中田勲君・坂口光治君・田中清君・村田高明君の功績が大きい。しかしその後高梨勇一君・中野秀夫君が小学生対象とした羽田の全日空整備工場見学会を企画実現し、胸を張って誇れる成果を挙げてくれた。

松本洋平君が国会議員とし、石毛茂君が都議会議員として居る。次は若い塾員から西東京市議会議員を選出したい。

先日、西東京市の市報に市長が今年の課題を述べていた。市民に役立つ事としては「過剰待機児童の解消」を挙げていた。三田会員の中には子供たちも家を離れ家族が減って、今使っている物だけに整理すれば一部屋ぐらいいは空き部屋になる方もおられるであろう。多くは無理としても数人の学童ぐらいいは世話のできる会員の家がないものであろうか。

幸いに今回、前の市長の坂口光治君が会長になられた。市民への貢献に大いに期待したい。

[注：氏の、NewsLetter 7掲載の、会長時代回顧文は一時期の三田会の状況が分り易く書かれているので72ページにも転載させていただきました]

第6代会長 高梨勇一氏

(ANA への社会科見学を実現、S34 政、現顧問)

印象深い思い出三点

六代会長として思い出は多いが、中でも ①西東京三田会の地域社会貢献活動 ②慶應義塾創立 150 年記念事業募金活動 ③会員の中から三人の政治家を輩出の三点は印象深い。



①地域社会貢献活動はいろいろ考えられるが、将来の日本を背負って立つ小学校 5 年生の課外授業のお手伝いをすることに的を絞った。

具体的には ANA の格別なご協力の下に“空の安全”がどう守られているか。羽田の格納庫で修理・点検中の大型ジェット機を間近に見学しながら、パイロット、キャビンアテンダント、整備士の講義や体験談を通じて楽しく勉強してもらうのが狙いであった。往復には市教育委員会の配慮で大型バスが用意され、車中では世話役の三田会員が航空に関する常識問題をクイズ形式で勉強するお手伝いをした。市内には 19 の小学校があり、毎年希望ベースで 4 校が選ばれ参加してきた。2006 年より 10 年間に亘って実施されたがなんと言っても縁の下の力持ちであった中田勲・中野秀夫両副会長の存在がなければ、この活動そのものが続かなかつたと云っても過言ではない。この機会に深甚なる謝意を表したい。

②創立 150 年記念事業募金活動について西東京三田会としてどう対応すべきか役員会に諮ったところ、まず会長以下各役員が寄附に対し率先垂範、応分の協力をするのが以心伝心決まった。引き続き一般会員に広く呼びかけ、結果として目標額を大幅にオーバーするに至ったことは云うまでもない。つくづく三田会は大人の集団であることを再認識した次第である。

③2005 年 2 月に坂口光治氏が西東京市長に、7 月に石毛茂氏が都議会議員に、9 月に松本洋平氏が衆議院議員に、それぞれ目出度く当選した。この快挙を祝福したいという役員会の意向により地元のフランス料理店でささやかな小宴を催したことが鮮明な記憶として残っている。一地域三田会から市長、都議会議員、国会議員が同一年に三名誕生することは稀有であるし、全国の地域三田会の歴史の中でも特筆されるものと考えている。西東京三田会の魅力溢れる人材に囲まれて活動出来たことに心より感謝している次第である。

第7代会長 直井 徹也 氏

(諸サークル活動を活性化、S30 経、現顧問)

『西東京三田会30年』に寄せて



塾高時代の同級生だった、故渡邊浩庸君から電話が来て、『何でお前西東京三田会に入らないのだ?』といきなり詰問されて戸惑ったことがある。

彼とはそう親しくはなかったのだが、良く高校時代は野球を一緒にやっていた。お互いに貶し合いながら二子玉川のグラウンドで野球をしたことを思い出す。彼はその後体調を崩し、帰らぬ人になったのは呉々も残念だし、悲しいと思っている。

彼が田無に住んでいることは全く知らなかった。彼の勧誘で2000年に西東京三田会——その頃は田無・保谷三田会だったと記憶している——の総会に始めて出た。当時総会は田無町のホテル・プライズで行われ、新人の紹介があった後、ゲストにシャンソン歌手の黒木悦子さんが出演した。爾後17年、年月の過ぎ去るのの早さに、途方に暮れる事がある。

この間3年間会長を務めたが、市内小学校5年生を対象にした、ANAの羽田整備工場の見学支援の際には殆ど毎回参加したことを覚えている。目を輝かせながら見学している小学生の様子は、見ていて微笑ましい感じがした。学校によって程度の差はあるが、興奮をそのまま学校に持ち帰ったのを見て、気持が若返ったように感じた。

偶然なことから写真展の会場を見つける事が出来た。二回目から会場となった柳沢公民館は、他のグループが写真展を開いているのを偶然見つけ、当会でも開催出来ないかと公民館側に相談してOKを貰い開催することになった。参加点数も次第に増え、それに写真ばかりでなく絵画や木彫り、書など多彩な作品が寄せられ、内容が多彩になり、名称も『写真・作品展』となったが、その都度重いパネルを運んだり、開催期間中毎日受付をしてくれる人には感謝したいと何時も思った。

この『写真・作品展』やひところ手がけたニュース・レターがそれぞれグレードアップして今日に至っているのは喜ばしい限りだと思っている。

60代の時入会したのだが、いつの間にか80の半ばを迎え、流石に衰えは隠せないが、90才を超える先輩もいる事だし、まだ幾つかの行事には参加出来ると思っている。

西東京三田会創立30年、これからますます発展して行ってほしいと思う。

30年の歩み 概要

田無三田会から田無・保谷三田会へ

1996.7.1 付「田無・保谷三田会会報」の斎藤毅氏<田無・保谷三田会の歩み>によると；
 “田無市在住者と田無市内に勤務する塾員有志、(故野村氏、故小玉氏、増田純一、田中清、斎藤毅等)が発起人となり田無三田会設立準備会を重ね、昭和 62 年 3 月田無三田会を発足し、会長に斎藤達、副会長斎藤毅が選出された。

平成 5 年 9 月 6 日田無三田会に保谷市在住の塾員有志の参加を求め、田無三田会を発展的に解消し新たに保谷市を含め田無・保谷三田会(地域)として出発することを決定した。そこで、必要最小限の会則変更し、保谷地区の塾員に加入勧誘を行った。その結果平成 6 年 1 月 8 日新年会を兼ねて初の顔合わせ懇談会を開催した。(出席者 53 名)

平成 6 年 5 月 13 日第 1 回総会を開き現役員が選任された。連合三田会にも地域三田会として正式に認知され現在に至っている。会員数は平成 7 年 3 月 31 日で 122 名を登録していたが、他府県転出者と過去 3 年間一度も応答のない方をこの際整理し、96 人とした。”

(以上原文のまま)

この会報記事は会の設立当時の事を実に無駄なく語りつくしてくれています。因みに「第 1 回総会」となっているのは田無三田会時代から通算すると「第 7 回」であり、記事中の「現役員」は、別記(74 ページ)のような、会長市川昌夫氏、副会長増田純一氏他 12 名の役員体制のことです。

実はこの会報は第 2 号であって、第 1 号として 94.2.1 付けのものがありますが、そこではあまり会のいきさつには触れられておらず、ただ役員として、別記(76 ページ)のような 5 人の表記があり、あとは会員名簿と会則だけです。会長が斎藤達氏(斎藤毅氏の小石川中学先輩とのこと)から増田純一氏に交代になっていますがこの時期等は不明です。

形式を同じくする「会報」はその後、98.8.1 付け、2000.8.1 付けと計 4 号発行されています。全て斎藤毅氏に成るものようです。

なお、第 3 号にあたる 98 年号には<田無・保谷三田会の沿革>という記事が、上述した 96 年号の<歩み>を再びまとめています。それによると；

“この間会長は、増田純一、三代市川昌夫と代り、10 年 6 月 13 日田中清が第四代会長に就任した。なお、会員は、平成 7 年 3 月 31 日 120 名をピークに、その後転勤、転居等により現在 90 名となった。”とあります。

活動の状況については、上述全 4 号ともに「同好会加入希望者」というページが会員名簿とは別にあるものの、この後の第 5 代会長奥村榮吉氏の手記(72 ページ参照)では、“田無三田会が発足したのは昭和 62 年 3 月である。私が入会したのは平成 2 年 4 月である。(中略) 当時は田無駅北口の「末広」に 1 年に一回集まっているだけであった。”と述懐されています。同好会として表記されているものは、ゴルフ、ハイキング、カラオケ、麻雀、囲碁、ボーリングでありました。しかし、「1 年に一回集まっているだけ」的状況は続いていたと思われま。平成 13 年 1 月に、田無・保谷三田会は「西東京三田会」に改称しました。

西東京三田会時代

平成 13 年度総会時、奥村榮吉氏が第 5 代会長に選出されるとともに、平成 5(1993)年時施行された会則に、会名称と会員範囲変更、顧問を置くことの変更など初めての会則変更が決議されました。しかし翌 14 年度の総会時の「13 年度事業報告」をみても依然としたる活動はなされているように見えません。翌 15 年度総会時の「14 年度事業報告」に、ようやく特記として、総会時に講演会と創立 15 周年パーティーが開かれ、その席で 4 人の会長経験者と斎藤毅氏、計 5 人に感謝状と金一封が贈られた記録があります。他の活動は 15 年度末に市民フォーラム「健康を支える食品と安全」を共催したことが記されています。この他、稲門会のイベントに参加したことと当会の役員会開催記録があります。

平成 15 年度総会時は、役員改選期で、議案には新任と再選の役員があるだけですが、奥村氏が会長 2 期目になりました。期初 4 月 20 日に懸案の東久留米三田会を発足に尽力したほか、この年度には、第 1 回の各種イベントが始まりました。ゴルフ、ダンスパーティー、ハイキング、カラオケ、グルメ、写真展などです。会報も装いを新たに「News Letter」が発刊されました。

その会報の冒頭巻頭言で奥村氏は、次のように記しています。“西東京三田会の存在のドメインは、「地域の役に立つ集団」という処にあります。(中略)平成 15 年度は、この 17 年間に蓄えたエネルギーが一挙に噴出したような年でした。”

会内の同好会(サークル)活動は、会長の「ラッパ」で実を伴うようになりました。その後このような会内諸活動が、主体的に行われてきました。現在に至るまで当西東京三田会の基本コンセプトになっており、基礎を築いた奥村 2 期目時代の功績が評価されます。

次の第 6 代、高梨勇一会長は「地域に役立つ集団」を実現されました。市内小学生の社会科見学として、ANA 羽田機体整備工場への引率を支援する航空教室の企画です。当時の全日本空輸の大橋洋治会長以下要職の方々、及び西東京市の坂口市長、宮崎美代子教育長ほか関係部署の方々と折衝を重ね、実現したものです。

航空教室では現職のパイロット、キャビンアテンダント及び機体整備士から生のお話しを聞き、質疑応答を行い、グループに分かれて機体整備工場を見学、目の前で離着陸する飛行機を見ることもできるものでした。この活動は毎年 4 小学校の 5 年生全員を対象に、平成 27 年までの 10 年間に延べ 37 校 77 クラス、2642 名の生徒をお世話してきました。

この「教室」は平成 28 年以降、少し形を変えて続けられています。

高梨氏後、会長は、第 7 代直井徹也、第 8 代渡辺康生、第 9 代鈴木條吉、第 10 代高橋信一の各氏と続き、現在は第 11 代坂口光治氏に至っています。

この間、親睦としての諸サークル活動と地域・塾への貢献という両輪が定着してきました。それぞれの活動が着実に回を重ねるとともに、内容も充実してきました。一方、平成 23(2011)年の東日本大震災、平成 28(2016)年の熊本地震に際し、いち早く塾に呼応して義援金の協力をするとともに、東日本大震災関係ではその後のフォロー活動も一部の会員によって続けられました。

会の活動の基礎は「会員数」です。このため、平成 21 年と 26 年の 2 度大がかりな組織的新入会員勧誘を行いました。平成 26 年度末に会員数は 100 名を越え、その後も維持しています。

30年の歩み 年表



設立3人衆と初代会長

田中清氏 増田純一氏

齋藤毅氏

齋藤達氏

(写真は平成15年総会時)



区分	準備期		田 無 三 田 会				
年次 / 月	昭和 60 1985	昭和 61 1986	昭和 62 1987	昭和 63 1988	平成 01 1989	平成 02 1990	平成 03 1991
当会関係事項	事務所は田中氏の会社にする 齋藤氏が塾員調べや勧誘を行う 末広で増田・齋藤毅・田中清氏他会合 増田純一氏が三田会結成を発案		田無三田会設立(発足)会:於「末広」 副会長…齋藤毅 会長…齋藤達(初代)		いづれかの時期交代 会長…増田純一(第2代)		この頃は 年に1度「末広」にて集会
塾及び国内外の動き	04 08 塾 塾長石川忠雄君(1977年)	04 チェルノブイリ原発事故	04 11 竹下内閣 国鉄分割民営化	03 04 瀬戸大橋開通 青函トンネル開通 リクルート事件	01 06 1月8日 昭和から平成へ 天安門事件	06 11 宇野内閣 ↓ 08海部内閣 ベルリンの壁崩壊	04 08 10 ドイツ再統一 クウェート侵攻 塾 湘南藤沢キャンパス開設
							01 11 宮澤内閣 湾岸戦争 バブル崩壊



田無三田会終盤（平成5年2月）

末広での懇親会の面々



第3代会長 市川昌夫氏

(田無・保谷統合準備)		田 無 ・ 保 谷 三 田 会				
平成 04 1992	平成 05 1993	平成 06 1994	平成 07 1995	平成 08 1996	平成 09 1997	
	02 09	01 05	03 05	05		
	19日 懇親会 於：末広（上記写真） 06日 関係者会議 ・ 保谷在住者取込「田無・保谷」に ・ 金銭出納長出发点 ・ 「会則」決定、発効原点	28日 田無・保谷親睦「顔合わせ会」 13日 「田無・保谷三田会」初総会 （当面、役員、会則等は田無三田会） 会長：増田純一 副会長：市川昌夫	その後整理 96名とした 平成6年度末会員数 122名 ピーク 総会 会長 市川昌夫（第3代）	25日 平成8年度（第9回）総会 ホテルプライズ 25名出席	総会開催日、不明	
12	09 10	05 05 06 07 08	04 06 10	01 03 11	01 09	04 07 11
ノ連崩壊	自衛隊カンボジア派遣 佐川急便事件	細川内閣 北海道南西沖地震 皇太子殿下御成婚 塾 塾長 鳥居泰彦君 プロサッカリーグ（Jリーグ）	北海道東北沖地震 松本サリン事件 羽田内閣 ↓ 村山内閣	Windows 95国内発売 地下鉄サリン事件 阪神淡路大震災	民主党結党 橋本内閣 CATVインターネットサービス開始	北海道拓殖銀行、山一証券破綻 消費税5%に 香港返還



平成 15 年度総会時の
集合写真

第 5 代奥村会長時代

市川第 3 代会長は見えない
が、奥村会長と前後の歴代会
長 10 人が、一同に会している

田無・保谷三田会			西 東 京 三 田 会		
平成 10 1998	平成 11 1999	平成 12 2000	平成 13 2001	平成 14 2002	平成 15 2003
06		06	01 05	05	03 04 06 12
13 日 平成 10 年度総会 会長 田中清 (第 4 代)	総会開催日、不明	11 日 平成 12 年度総会	(保谷・田無合併で「西東京三田会」) 20 日 平成 13 年度総会 会則改正 会長 奥村榮吉 (第 5 代)	26 日 平成 14 年度総会及び 「創立 15 周年記念パーティー」 斎藤達・増田・市川・田中・斉藤毅氏表彰	市民フォーラム「健康を支える食品と安全」 20 日 東久留米三田会設立総会 1 日 総会で年会費値上げ決定 会員村田高明氏 健康・医学講演会
02 07 12	09 12	04 06 07	01 04 04 05 09 10	04 05 09	09
長野オリンピック 小淵内閣 NPO 法	IT バブル 東海村 JCO 臨界事故 塾 矢上に創想館竣工	森内閣 三宅島噴火 沖縄サミット	保谷・田無合併で西東京市誕生 小泉内閣 塾 看護医療学部開設 塾 塾長 安西祐一郎君	学校週 5 日制 FIFA 日韓開催 アフガニスタン紛争 アメリカ同時多発テロ	自由党が民主党に合流 自衛隊イラク派遣 イラク戦争

ANA 機体整備工場見学支援

写真展(第一回カルディにて)



西 東 京 三 田 会				
平成 16 2004	平成 17 2005	平成 18 2006	平成 19 2007	平成 20 2008
03 04 06 10	03 06 11 12	01 10 12	06 11	05
<p>06日 総会 Newsletter 1号発行 健康に関する講演会実施 初の写真展をカルディで開催</p> <p>西東京市日中友好協会発会式</p>	<p>05日 平成17年度総会 サークル活動回を重ねるようになる 有志が坂口光治君市長就任祝い</p> <p>会長 高梨勇一(第6代)</p> <p>ダンスパーティー コール田無 31名参加 有志が石毛茂・松本洋平君励ます会</p>	<p>慶應義塾150周年記念募金に協力 ANA羽田駐機場見学引率2校 第2回写真展保谷(現柳沢)公民館</p>	<p>写真展時期を11月末頃に移動 会長 直井徹也(第7代) 17日 平成19年度(総会)</p>	<p>講義や実習補助(翌年と2回) 西東京市新任教員研修の</p>
04 04 04 05 10	03 03 04 08 10	01 09	07 09	04 06 07 09 11
<p>新潟県中越地震 日朝首脳会談 拉致被害者帰国 営団地下鉄民営化(東京メトロ) イラク戦争日本人質事件 塾 法科大学院の開設</p>	<p>塾 三田に南館竣工 愛知万博 インターネット普及進む</p> <p>郵政解散 福知山線脱線事故 塾 三田に南館竣工</p>	<p>安倍内閣 ライブドア・ショック</p>	<p>リーマンショック・世界金融危機 福田内閣 新潟県中越沖地震</p>	<p>塾 創立150年記念式典挙行 麻生内閣 北海道洞爺湖サミット 秋葉原通り魔事件 塾 共立薬大と合併薬学部開設</p>

家族ともども楽しむ、三田会レディース活躍

たけのこ掘りを
楽しむ会



第一回の野崎邸ブルーベリー摘み会



平成 21 2009	平成 22 2010	平成 23 2011	平成 24 2012	平成 25 2013
01 04	03 06 06	04 08 10 11 12	02 03 05 05 07 09 11	05
<p>新入会員との懇親会 墨花居 組織的会員募集で28名入会</p>	<p>20日 平成22年度総会 歴史散歩企画試行 田無神社 出前講座「宇宙の謎と不思議」 会長 渡辺康生（第8代）</p>	<p>増田元会長ご逝去 市内歴史散歩会を始めて実施 ANA本社に市長らと会幹部訪問 初めて「ブルーベリー摘み会」 東日本大震災義援金 塾経由100万円</p>	<p>20日 平成24年度総会 東久留米三田会創立10周年に6名 市川元会長ご逝去 復活第1回麻雀の会 ピーマン</p>	<p>この年、東北被災地訪問2回 西東京三田会レディース活躍 新企画「たけのこ掘りを楽しむ会」</p>
04 04 05 05	06 09	03 09 12	05 09 12	02 03 09 12
<p>裁判員制度 アメリカ オバマ大統領</p>	<p>菅内閣 尖閣諸島衝突事件</p>	<p>野田内閣 東日本大震災</p>	<p>安倍内閣 尖閣諸島国有化 スカイツリー開業</p>	<p>特定秘密保護法 2020東京オリンピック決定 中国 習近平主席 韓国 朴槿恵大統領</p>

各種サークル活動

小平三田会設立



平成 26 2014				平成 27 2015				平成 28 2016			
01	03	05	06 09 12	01	02	04	05 11	03	03	05	05 07 08 10
西東京三田会通信に「今月の1枚」開始 鈴木会長辞任(樋口明朗会長代行) 25日 平成26年度総会 会長 高橋信一(第10代) 組織的会員勧誘で39名入会 新入会員歓迎会実施 西東京三田会ホームページ開設				東村山三田会初の新年会に出席 西東京市日中友好協会行事に共催 写真・作品倶楽部が「観桜会」実施 小平三田会設立準備が大詰め ANA機体整備工場見学支援10年達成				19日 小平三田会設立 期初会員100名超の定着 22日 第29回総会 会長 坂口光治(第11代) 熊本地震災義援金(塾経由) ニュースレターを未加入塾員にも配布 29年度第30回総会時記念行事決定 小学生社会科見学支援新方式			
04	05	06	09	03	07	11		01	02	03	04 05 06 07 08 11
消費税 8% STAP 研究問題 中東にイスラム国 御嶽山噴火				北陸新幹線金沢まで開通 東芝不適切会計 パリ同時多発テロ				日銀マイナス金利 北朝鮮 長距離弾道ミサイル 北海道新幹線 民進党成立 熊本地震 伊勢志摩サミット オバマ米大統領が広島へ 英 国民投票でEU離脱を選択 東京都知事 小池百合子氏 リオデジャネイロオリンピック 米次期大統領にトランプ氏当選			

西東京三田会の活動

会則の目的と事業の変遷

田無三田会当時はまだ会則はなかったが、保谷市関係者と一緒になるに先立っての平成5年(1993年)、田無・保谷三田会会則が発効しました。その第1条が次の「目的」です。

“会員相互の親睦と相互扶助を図り、もって会員の向上発展に寄与する事を目的”とする

その後、これだけではだめだという機運が高まって、現在の第1条の「目的」は、

“会員相互の親睦と相互扶助を図るとともに地域社会に貢献することを目的とする”となりました。

現在はこの目的を二本柱、あるいは塾への協力を加えた三本柱と言っています。いずれにしても会の目的は、「何かをやろう」と発意した者が仲間を募る際の「慶應義塾」と「同地域在住・在勤」という二つのキーワードを絆とする「母体」であると言えます。

「何かをやろう」と発意して、この三田会会員を母体として実現したならすべて「活動」です。この30年におけるこの「活動」の概要をまとめてみました。

分類と活動の概要

活動の目的による分類は、会則にあるとおり、「親睦と相互扶助」、「地域貢献」です。そして両目的を推進するための、背後には諸々の、「会務活動」があります。

1. 親睦と相互扶助

総会や新年会のとき、あるいは新入会員多数の時の「懇親会」とサークル活動が該当します。慶弔関係も該当しますが、詳細は省略します。

第5代会長(平成13年～16年まで2期在職)の奥村榮吉氏は、入会は平成2年とのことですが、田無三田会から田無保谷三田会に至るまでの活動について、

「会員は約40名程度だったが、実際の会費入金者は20名程度、活動としては年1回[末広]で行う会に15名ほど集まるのみ」(大平一会員による2016.12.9ヒアリングによる)であったと回想しています。同好会は会報に名前を表はあっても現実には機能していなかったようです。このように、公式的な「年1回集まる会」は、田無三田会当時は新年会なり忘年会であったようですが、田無・保谷三田会になってからは5月又は6月に、「総会・懇親会」に位置づけられたようです。ローカルな集まりも親しい会員間ではなにか多少はあったかもしれませんが記録上は不明です。

奥村元会長の第1期後半から第2期にかけて(平成15年から16年)第1回「写真展」をはじめ、第1回の〇〇会がスタートするなど実がでてきたようです。今日の体制の原型ができたのがこのころだといえると考えられます。しかし例えばゴルフ会や写真展(今は写真・作品展)のように定期的に続いているもの、あるいは不定期ながらも続いてきているもの等の一方で、一時は記録上によく見える「ダンス会」、「旅行会」、「五行歌の会」などはその後続いていないまま現在に至っています。

一方、同好サークル活動等に新風が入れられ、活動の中興の時期となったのはごく近年、2012年(平成24年)～13年(25年)にかけてで、当時の久住眞太郎会員がカラオケ会を軌道に乗せたり、ブルーベリー摘み会を開始したり、また、意外と考えられかもしれませんが、「麻雀会」を初めてオフィシャルな開催にこぎつけたのもこの年、2012年(平成24年)2月で久住氏のリードによるものでした。このころ、他にも、たけのこ掘りを楽しむ会、市内歴史散歩会など新企画が実現に移され現在に至っています。

注：過去の会報に現れるサークルは、・ゴルフ・ハイキング・カラオケ・麻雀・囲碁
・ボーリング・テニス・ダンス・釣り・玉突き・写真作品倶楽部(当初は写真クラブ)
・ブルーベリー摘みを楽しむ会・たけのこ掘りを楽しむ会・グルメ・市内歴史散歩
・マリオネット人形造り・旅行・五行歌と多岐ですが、消長があり全く行われなかった、または数回行われ現在行われていない、ごく最近できたものなどがあります

2. 地域貢献

会則上の表現は「地域貢献」だけですが、広く社会貢献も含みます。

奥村元会長の、「会員同士の親睦の会だけではこの会の存続意義は無い。西東京市民の為になることを、慶應義塾の為になることをして行こう」という掛け声のもと、行われだした各種活動が現在も続けられています。

地域教育に関係する自主企画や依頼されての活動、そのほか講演などを実施いたしました。なかでも、小学生社会科見学支援は特記すべき活動です。今後も積極的にニーズを把握し、対応して行きたいものと考えています。

3. 会務活動

「親睦・相互扶助」「地域貢献」を支える会務として、

- 1) 塾、地域他大学同窓会、近隣三田会等との友好協力関係促進のための活動、
 - 2) 種々の手段による会動向の広報(会報作成送付、その他)、
 - 3) 通常会務(会の活性化その他の為の役員会他諸会議や事務)
- なども粛々と実施されてきています。

以下に諸活動の内容と概要を、それぞれの関係者が先輩等のご意見も聞いてまとめております。なお、地域教育への貢献の一環で、小学生の社会科見学支援は特記すべき事項であったため、独立した項目としてまとめました。

全会員がこの西東京三田会という「会」を、あるいは「会員」を、積極的自己実現の基盤として大いに「利用」していただくことが会の活性化に繋がることを考慮してできるだけ多くの活動に参画してほしいものです。

なお、西東京三田会会員を母体とする活動は上記以外に、①会員の選挙勝利祝いや退任慰労の会など賛同有志による会、②会員同士が街中で出会い意気投合して定例あるいは不定期に会則の目的に叶う集まり等もありますが、これらについては割愛します。

親睦・相互扶助

総会・懇親会

通常総会は5月または6月に開催され、終了後に懇親会が行われます。

総会では、定例議案は前年度事業報告、会計報告と監査報告、当年度事業計画案、予算案の承認で、適宜役員改選、会則改正その他必要な議案が提示・審議され、概ね50分前後です。

その後の懇親会は、アトラクションを取り入れ、会員家族などの参加もあり、和やかで有意義な時間を約2時間過ごし、宴たけなわなるを惜しんで散会となります。

最近15年間の総会の日時・場所等は次の通りです。

年度	開催日	場所	会員	出席	アトラクション	備考
13(2001)	5.20	網元(休テルブライ)	94	29	黒木悦子さん	会長奥村氏選出
14(2002)	5.26	網元(休テルブライ)	88	47	黒木悦子さん	懇親会=15周年パーティー
15(2003)	6.01	網元(休テルブライ)	93	50	中沢信之氏(マジシャン)	奥村氏2期目承認
16(2004)	6.06	網元(休テルブライ)	82	40	河本明氏(ハーモニカ)	
17(2005)	6.05	網元(休テルブライ)	74	35	相良お絵&みながわちかこデュオ	会長高梨氏選任
18(2006)	6.04	網元(休テルブライ)	82	39	コールヘリテージ	
19(2007)	6.17	西東京市民会館	78	33	相良お絵&みながわちかこデュオ	会長直井氏選任
20(2008)	6.15	西東京市民会館	76	30	相良お絵&みながわちかこデュオ	
21(2009)	6.15	西東京市民会館	75	46	Soft Voice(アカペラ)	直井氏2期目承認
22(2010)	6.20	コール田無	99	46	Soft Voice(アカペラ)	会長渡辺氏選任
23(2011)	5.22	ダイアコミュニケーション	95	39	相良お絵&みながわちかこデュオ	
24(2012)	5.20	西東京市民会館	91	39	相良お絵&みながわちかこデュオ	会長鈴木氏選任
25(2013)	5.29	西東京市民会館	95	34	三野友子(ライアー)	
26(2014)	5.25	西東京市民会館	92	32	りくラッツ(アカペラ)	会長高橋氏選任
27(2015)	5.24	コール田無	124	53	二胡 楊氏	
28(2016)	5.22	コール田無	118	48	三村い子&みながわちかこデュオ	会長坂口氏選任

直近の平成28年度の総会・懇親会

5月22日(日)13時～17時 コール田無2階イベントルームA・Bにて開催

- ・ 総会(イベントルームAで開催:Bでは懇親会準備)

まず、塾員センター北村課長には塾と行事が重なるなかを出席され、会長挨拶後ご挨拶いただきました。

定例の議題に加え、役員改選期に当たっており、会長が高橋信一氏から坂口光治氏への交替、幹事長・副幹事長新設、6人の新役員選任など提案が多彩であったなか、定例議題で少々議論があったものの最終的には全議案が修正なく承認されました。



- ・ 懇親会(A・Bルームの仕切りを取り去り場所を整えて実施)

当西東京三田会が設立にお手伝いした「小平三田会」からと、それに加え初めて「KP会西武支部」からの各お二人のお客様をお迎えできたことは会史上においても特筆すべきことでした。

アトラクションは「三木れい子(ヴァイオリン)+みながわちかこ(ピアノ)」さんによる『若き血コンサート』、なつかしい映画音楽メドレーなども交じり、ひとしきり会場を和ませました。



総会または懇親会に参加された会員は 36 名、懇親会には会員家族やお客様 12 名、関係者は総勢 48 名でした。

最後に集合写真を撮る。28年度の1枚



なお、29年度はこの総会時に「創立 30 周年記念式典」を挙げるようになっていきます。

新年会

新年会は、毎年1月に開催しています。



みなさんが、希望に燃えて、この1年の「西東京三田会」の更なる活性化を胸に秘め、にぎやかに挙行されます。

会員のグループがアトラクションを担当して下さったこともあります。そしてエール交換、記念写真、というのが大体の筋道になっています。(開催場所によりアトラクションがない時もあります。)

本年までの10年間の状況は以下の通りでした。

年度	開催日	場所	出席	アトラクション
19(2007)	20.1.12	墨花居	32	(不明)
20(2008)	21.1.10	墨花居	40	(不明)
21(2009)	22.1.09	コール田無	42	田無囃子
22(2010)	23.1.23	コール田無	41	二胡演奏(大内会員グループ)
23(2011)	24.1.15	ダイアコミュニケーションホール	48	ノーザンシックス(ジャズバンド)
24(2012)	25.1.20	西東京市民会館	49	ME6432(智田会員グループ)
25(2013)	26.1.26	西東京市民会館	41	みながわちかこ&三木れいこデュオ
26(2014)	27.1.25	墨花居	56	無し
27(2015)	28.1.17	墨花居	54	無し
28(2016)	29.1.15	墨花居	48	無し

27年度(28年1月17日)のこの新年会においては、準備整った「小平三田会」創設準備会の面々に対し、三色旗と幟旗の贈呈式も行われました。

28年度の当会の発展と新設される「小平三田会」への弾みをつける新年会でした。

そして平成 29 年 1 月も実に有意義な懇親の場とすることができました。

平成 29 年(2017 年) 1 月 15 日(日) 14 時～16 時 墨花居
出席者総数 48 名 会創立 30 周年の幕開けを飾りました。

高梨顧問の乾杯の音頭で始まり、歓談・歓談・歓談、そしてお料理、若き血と紺碧の空、そして直井顧問の中締め。

この流れの中に充実した 2 時間はあっというまに経過しました。会員の皆さんの創立 30 周年記念式典にかける気概を感じさせました。



ご来賓にもお祝いのご挨拶をいただきました。西東京稲門会、東久留米三田会、東村山三田会、そして新規に小平三田会、さらに当会会員にして KP 会西武支部のお二人、本年度後半の新入会員にもひとことご挨拶をいただきました。



このように会員のみなさん、この新年会を希望に満ちた 1 年にする出発点としています。特に本年は 5 月 20 日の「創立 30 周年記念式典」の成功に向けて志気を鼓舞しました。

新入会員歓迎会

組織的に会員増強の勧誘を行い大勢の新入会員を迎えたとき、臨時に歓迎会を行います。

26年度は大勢の入会者があり、歓迎会は9月14日西東京市民会館で開催され、新会員20名、在来会員27名が参加しました。



平成26年度は7月からの勧誘活動で歓迎会時までに35名、その後も入会者がありました。

なお、平成26年度の前は、平成21年2～3月(20年度)の勧誘運動で、26名の入会者があり、翌年度21年4月19日、墨花居にて歓迎会が開催されました。

新入会員20名、在来会員12名、合計32名が参加されました。

このような組織的新入会員勧誘により、21年のときは、瞬間会員数100名になったものの、すぐに大台割れしてしまいました。しかし、26年の際は瞬間最大会員数130名(この130人目は、27年1月25日の26年度新年会の日)で、今まではなかったが、26年度末は勿論、27年度末、そして今年3月末(28年度末)と、ここ3年連続期末100名超を維持していることは特記すべきことといえます。

サークル活動

以下にサークル活動について概要を紹介します。

下の表は最近10年の総会時名簿に記載されていたサークル担当者です。

「クラブ」、「倶楽部」、「の会」等省略
また「写真」は現在「写真・作品」

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
ゴルフ	大平 宇賀神 弘津	鈴木 宇賀神 弘津	鈴木 宇賀神 弘津	鈴木 宇賀神 弘津	鈴木 宇賀神 弘津	鈴木 宇賀神 弘津	鈴木 宇賀神 弘津 原	鈴木 宇賀神 弘津 原(護)	鈴木 宇賀神 弘津 原(護) 曾根原	鈴木 弘津 原(洋) 大平	鈴木 弘津 原(洋) 大平	大平 弘津 原(洋) 宝井
社交 ダンス	高梨 石毛 和田	高梨 石毛 和田	高梨 石毛 和田	高梨 石毛	高梨 石毛	---	---	---	---	---	---	---
カラオケ	奥村 添田	添田 中野	添田 中野	添田 中野	添田 中野	中野 添田 沼田	中野 添田 沼田	久住 亀山	久住 亀山	久住 亀山	皆川	皆川 牛島
写真	直井 坂口	直井 中田	直井 中田	直井 中田	直井 中田	直井 中田	直井 中田	直井 中田	坂口 大平	大平 坂口	大平 坂口	大平 坂口
ハイキング	中田 石毛	中田 石毛	中田 石毛	中田 石毛	中田 石毛	中田 石毛						
グルメ	鈴木 大平	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木 平館	鈴木 平館	鈴木	長谷川 久住	長谷川 鈴木	長谷川 鈴木	小笠原
囲碁・ 将棋	斎藤 高梨	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
五行歌	渡辺(浩) 直井	渡辺(浩) 直井	渡辺(浩) 直井	---	---	---	---	---	---	---	---	---
歴史散歩	---	---	---	---	---	曾根原 佐田	曾根原 佐田	曾根原 佐田 樋口	曾根原 佐田 樋口	曾根原 佐田 樋口	曾根原 佐田 樋口	曾根原 佐田 樋口
麻雀	---	---	---	---	---	---	---	久住 亀山	久住 亀山	久住 亀山	亀山 伊藤(信)	原(護) 栗原
ブルーベ リー摘み	---	---	---	---	---	---	---	久住	久住	久住	宮本	宮本
たけのこ 掘り	---	---	---	---	---	---	---	---	佐田 熊坂 長谷川	佐田 長谷川 熊坂	佐田 長谷川 熊坂	佐田 長谷川 熊坂
人形づく り	---	---	---	---	---	---	---	---	---	吉川	吉川	吉川

ゴルフ会

当会初のゴルフ会は、平成 15 年 11 月 26 日に高根カントリー倶楽部にて西東京稲門会及び東久留米三田会から各 4 名を含めて 16 名が参加し行われました。稲門会の比留間治男さんが記念すべき第 1 回の優勝者となり盛会裡に終わりました。以来、年 2 回（春・秋）行なわれ、今は 27 回を数えています。大雨で当日中止となった第 22 回大会（平成 26 年 6 月 12 日）を除き、毎回 20 名強のゴルフ愛好家の皆さんが参加され、1 打 1 打に一喜一憂し、楽しい交流の場になっています。現在までに累計で 528 名が参加されました(最多参加人数は、第 12 回大会の 28 名、7 組)。

又、当会ゴルフ会は西東京稲門会ゴルフ会との相互交流が盛んで、稲門会から毎回 4～9 名が参加され、強敵ばかりの参加者に対して当会会員も負けずとばかり、好スコアを目指して毎回、熱戦が繰り広げられます。成績は現在まで当会 12 勝、稲門会 14 勝と劣勢ですが、直近の 2 回は当会会員が優勝し、挽回が図られています。

なお、両校ともに相互に参加しやすいように、コンペの開催日を 2 週間程度空けるようにしています。

競技は当初、新ペリア方式で行いましたが、途中からハンデ戦(6 回～18 回、23 回～24 回)となり、25 回以降は参加者の要望により新ペリア方式になっています。

個人別成績で見ると、複数回優勝者は当会の宇賀神一雄さん、智田秀穂さん、稲月喜一さん、及び稲門会の柴田巴さん、増本靖典さん、滝沢功さん、秋本武さん 7 名で、各氏とも 2 回です（下表）。

ベストスコアは智田秀穂さんが 6 回、秋本武さんが 5 回獲得し、ベストスコアは、秋本武さんが第 15 回大会、高麗川カントリー倶楽部で出した 83 です。

これらの個人記録を塗り替える参加者の出現や早慶の名勝負が期待されます。これからも皆さんが楽しんで頂けるようなゴルフ会を企画していきますので奮っての参加をお待ちしています。

< ゴルフ会各大会の優勝者 > (敬称略)

第1回 比留間治男	第2回 鈴木條吉	第3回 星野朝男	第4回 柴田巴	第5回 柴田巴
第6回 宇賀神一雄	第7回 智田秀穂	第8回 渡辺康生	第9回 岩本幸一郎	第10回 小瀧絳路
第11回 増本靖典	第12回 宇賀神一雄	第13回 伊藤道明	第14回 滝沢功	第15回 秋本武
第16回 秋本武	第17回 斎藤恵美子	第18回 智田秀穂	第19回 滝沢功	第20回 荒井勇
第21回 増本靖典	第22回 雨天中止	第23回 小川恒雄	第24回 原 護	第25回 原田一彦
第26回 稲月喜一	第27回 稲月喜一			

ベスグロを 6 回獲得している智田秀穂さんからゴルフサークルに寄稿されていますので紹介します。

西東京三田会ゴルフ会に栄あれ”

今から約 10 年前に、会社の先輩でもあります田中達彦さんのご紹介で本会に入会しました。

以来、大変盛んに行なわれている他のサークル活動は失礼しておりますが、ゴルフ会には出きる限り参加させて頂いております。

エピソードというものではありませんが、この会は総じて天気に恵まれて来ましたが、一度だけ集合後雨脚が強くなり皆の総意で中止・解散したことがありました。

個人的には、二年前に前立腺の摘出手術を受けたため体力が落ちてしまい、オフィシャルハンディが 18 から 24 になりましたが、今年の年初から一念発起し、毎日朝のウォーキング並びにレッスン・プロの指導を受けた結果、22 まで回復しました。

これからも健康を維持して、皆さんと一緒にプレーさせていただきたいと思っております。

智田氏は第 5 回大会（平成 17 年 10 月 20 日、久邇カントリー倶楽部、24 名参加）から参加し、2 回優勝（第 7 回、第 18 回）されております。

写真：上は第 27 回大会（平成 28 年 11 月 16 日、高麗川カントリー倶楽部 22 名参加）
下は第 26 回大会（平成 28 年 6 月 8 日、久邇カントリークラブ 20 名参加）



(原 洋一 記)

写真・作品倶楽部

写真・作品倶楽部は、当初写真展だけで出発しましたが、その後写真以外にも絵画・造形物等も展示するようになり、いまは写真・作品展として柳沢公民館で毎年秋に開催しています。

さらに、最近は満開のさくらを撮る会が他の友好会と共催するようになり、衣替えをして「第3回観桜会西東京三田会」として満開の桜のもと、賑やかに開催しました。



写真展 13年のあゆみ

最初の写真展は2004年3月末に田無町の喫茶店『カルディ』で11名、26点の作品で行われました。稲門会からも参加があり、二科展入選のモノクロが展覧されました。

2回目からは会場を柳沢公民館の1階ロビーに移して、13回の今日に至っています。カメラは僅かにフィルムカメラが使用されたこともありますが、殆どがデジカメで、風景・人物・動植物など多岐にわたる作品が展覧されており、稲門会からは第2回以来毎年富士山限定で撮影された写真が展示され、話題になっています。



また最近では写真・作品展と名称が変わり、写真の他に絵画・水彩画、版画、書、それにプロ作家による木彫やステンドグラスの工芸品など、展覧も多様化しています。昨年の平成28年は新しく小平三田会の会員も加わり、参加者20名、写真60点と、最高の規模になりました。内容も当会独特の活動、ANA羽田整備工場見学支援や、東日本大震災に関するものも展覧され、注目を集めています。

“今月の一枚”は平成26年1月から現在まで続いている進行形のイベントです。会場に展示された作品の中から事務局と会運営者たちの互選で写真と作者の思いを込めたコメント約240文字で毎月月刊メール通信に、当初は添付してご覧いただき、平成26年10月からは、通信では西東京三田会ホームページ(<http://www.nishitokyo-mitakai.net/>)に掲載したことをお知らせしてご覧いただけるようにしています。”写真・作品倶楽部”のコーナーで簡単に見ることができます。

右画像は平成26年7月の”今月の一枚”として、選ばれたユニークなテーマと、明るい沖縄が表現された人気の一枚です。



西東京三田会観桜会

第1回 西東京三田会観桜会



『主役はおいら』小笠原寿男君 (S57 年経済卒)

その中から事務局でこの作品を優秀作として取り上げました。

桜満開の中、菜の花との共演に負けるものか！と横一文字のソメイヨシノの対比が秀逸であります。

西東京稲門会や明治大学 OB 小金井支部の会にもぎわっており、期せずして3校のエール交換となりました。

西東京三田会写真・作品倶楽部の春版で“春の写真撮影会”のイベントとして平成27(2015)年4月4日(土)開催しました。

撮影会を更に盛り上げようと考え、西東京市日中友好協会と共催し、アトラクションに“楊智さんと二胡楽団”の皆さんの演奏も加わりました。中国からの留学生も大勢参加されました。

撮影会参加作品は、残念ながら大変少なく、



第2回 西東京三田会観桜会

平成28(2016)年4月2日(土)に小金井公園の資料館前・中央ステージ西側に陣取って



開催しました。三色旗の下に新たに協賛で小平三田会の皆さんも加わりました。この年も中国留学生が参加、イベントに昨年同様、楊智さんと二胡の会の皆さんの二胡の演奏や、小平三田会の山崎俊道さんのギター演奏もあり大変賑やかな会となりました。近くで西東京稲門会の皆さんも20名近くで宴を張っていて交歓の輪が広がりました。ソメイヨシノも満開で曇りではあり

ましたが、数万人の来場者で埋まり足の踏み場もないほどの盛況。今年目立ったのは家族ずれの小さいカラフルなテントがあちこちに咲き乱れ、1,700本の桜の内半数以上が満開、八重系の桜も数日後に満開を迎えそうな気配でした。

(大平 一 記)

グルメ会

グルメの会、楽しみも3期目に

グルメの会は、13年間でサークル活動の内容が3つに分かれます。

グルメの会は、平成16年に西東京三田会の名簿作成をする際、会員の「趣味」を入れることで会の活動を活性化する思いがあり、刷新した名簿の「趣味」の欄を見て会員が集まり発足しました。

第1期は平成16年～平成21年までの5年間の活動で、東京近郊の「うまい」といわれる店に食べに行く時期。第2期は平成21年～平成25年までの4年間の活動で、西武新宿線西武柳沢駅の近くの居酒屋で旨い食材を手配する時期。第3期は平成28年から開始したテーマを決めて都内へ見学に行き、美味しい食事も欲しいけど、見てみたい、聞いてみたい、知りたいの「欲しい」も取り入れた、食事と見学の欲張りな時期です。

第1期の平成16年～平成21年まで5年間の活動は、第1回目は平成16年2月に、フランス三ツ星レストラン『トワグロ』等で5年間修業した北島素幸氏を個人的に知り合いの当三田会会員がアレンジされ、四ツ谷の本格的フランス料理店【北島亭】を12名の参加で行われ、グルメクラブが一気に話題になりました。第2回目は平成16年10月に、東京吉兆に大変懇意にしている当三田会会員のアレンジで、当時立川伊勢丹に吉兆があったことから、『日本の懐石料理の名店に行きたい』をキャッチフレーズにその吉兆のお昼の食事に行きこれも大好評でした。この時期は、「うまい」ものを食べるに活動的に各地へ行き、上記以外にも、あきる野市へ炭火焼と山里料理目当てに、神楽坂でのランチに、東京湾クルーズでの食事などに、活発に動きまわる大変楽しい時期でした。

第2期は平成21年～平成25年までの4年間の活動で、写真展覧会と合同で恒例の「味処たけさわ」で九州長崎のクエ、すき焼き、などを食べた時期です。全国の旨い素材を大将に指定して直接仕入れていただき、気取らない慣れた店で、「うまい」料理を食べました。家にも近いので時間を気にせず、寛いだ感覚がとても良かった感じがします。居酒屋風の「味処たけさわ」の大将の気取らない人柄にほれた時期でもありました。

第3期は平成28年～の現在活動です。テーマを決めて都内の見学会を2時間程行い、その後の食事会を開催しています。参加される会員の趣向を聞いて、去年は3回開催し、今年も4回の開催を計画しています。

平成28年7月6日(水)「日銀の見学とてんぷらを銀座阿部で食するカイ」では、日銀で1万円札の裁断したお土産をいただき、天ぷら屋さんでも日銀の話題で盛り上がりました。次の、平成28年9月3日(土)、ひばりが丘吉之助では美味しい日本酒のグラスが進みました。

そして秋、平成 28 年 11 月 17 日(木)は「最高裁判所とスペイン料理の食事するカイ」、懐かしい赤坂プリンスのクラシックハウスでの記念撮影など、食事をしながら昔の話に花が咲きました。

今年、平成 29 年は、まず増上寺の見学と昼食会です。慶應義塾大学信濃町キャンパスのツアーと食事会も、そして「芸術の秋と食事会」、最後に吉之助で忘年会の 4 回を予定しています。

食事会に興味のある方が集まり、会話も楽しむグルメの会は、義塾で勉強していた時のサークル活動に基があるような感じがいたします。

” 写真・作品の展示、お疲れ様でした。大勢のひとが見物してくださることを祈ってカンパイ！” (たけざわ)



第 1 期 平成 16 年
10/27「吉兆」(現在は無い)での会食



28.11/7 最高裁判所 見学



第 3 期、最新のグルメ会

29 年 2 月 11 日、「芝増上寺の見学とザプリンスパークタワー東京での昼食会」

参加者は 20 名、増上寺では特別に法話をいただき、近くの塾薬学部芝キャンパスの説明を間に挟み、昼食はザプリンスパークタワー東京の 33 階のレストラン「ブリーズヴェール」。丹沢まで見える眺望のもとでのグルメ会でした。

(小笠原 寿男 記)

ハイキング会

ハイキングは現在まで 32 回実施しました。行き先は①奥多摩・高尾(10)、②秩父・奥武蔵(8)、③湘南(8)が主なところですが。その他、筑波、勝沼、上州富岡、銚子などです。風光明媚な場所、花・紅葉、文化遺産・美術館、先端技術施設などをキーワードに季節を考慮して行き先を決めています。訪問先に行く際に参考となると思われることについて、エピソードを交え地域別に分けて示します。

1. 奥多摩・高尾

御岳山と周辺の間々は交通の便とさまざまなコース設定が出来るので回数が多くなっています。山岳地域以外にも玉堂美術館、吉川英治記念館、カンザシ美術館や酒造（小澤酒造・沢の井）を季節の変化に合せ訪れました。御嶽神社参拝の折には帰路に刺身コンニャクを仕入れ、御岳から沢井間を多摩川に沿って歩き沢の井を楽しみながら帰ること多くありました。直近では紅葉が始まった日原鍾乳洞に行きました。

2. 秩父・奥武蔵

西武線利用が便利で奥多摩同様花の季節に合わせてコース設定をしています。これまでは和銅遺跡、江戸巡礼古道と酒づくりの森（秩父錦）と武甲正宗、秋の七草寺巡りなどを行いました。また、芦ヶ久保・日向山直下の木の子茶屋の鍋ではシシ鍋（イノシシ）と言ったのが、シカ鍋がでてきました。秩父ではシシは鹿を意味し、猪はイノシシということがわかりました。小川町では、世界文化遺産・細川紙漉きを行ないました。体験では紙漉きのトロロアオイが腐り難い冬場（3月まで）が良いのですが、実験教室ではパルプを使っていました（さいたま伝統工芸館）。同日八高線で東飯能に出て飯能商店街のウィンドウのひな壇飾りを見て飯能まで歩きました。

直近では冬にあしがくぼ氷柱見物に行きました。

3. 湘南（城ヶ島、鎌倉、熱海・真鶴）

花はウメ、スイセン、アジサイのころの訪問が多いです。特に幕山の懸崖に咲く紅白の梅は見事です。湘南の食は、熱海の梅園（来宮）見物後、真鶴“岩忠”での地魚盛、真鶴岬と中川美術館立寄り後、真鶴漁港“魚座”での地魚と地酒「頼朝の船出」を、城ヶ島でも漁港近くで地魚を楽しみました。鎌倉では、北鎌倉・“鉢の木”での会食後、鶴岡八幡宮参拝、長谷寺、大仏、瑞泉寺、杉本寺などに行きました。、長谷寺門前の“漁（いさり）”は売上目標に達すると午前中でも店を閉め、飲酒もビール 1 本までと姉御肌の女将のペースで食

べさせていただくお店や、杉本寺の門前にある“左可井”のアナゴの天ぷらと卵焼き専門の店（普通の民家）などいろいろありました。鎌倉へは集合しやすさと座席確保のため小田急・新宿から藤沢経由江ノ電の利用が往路では多いです。歴史面では石垣山・小田原を歩きました。先ず県立生命の星・地球博物館に立寄りスケールの大きさを体感した後、石垣山の城址から小田原城攻めを想定し小田原城に向かいました。途中小田原漁港の食堂で地魚を食し、市内を見物しました。

4. その他の地域

- 1) 鋸 山：登山後、浜金谷港で地魚を食し、船上から夕日を楽しみ久里浜に渡る。
- 2) 筑 波：JAXA 見学後、宇宙飛行士の歓送迎会も使われる田舎風フランス料理店 **Bistrot Passe - Passe** で食事し、守谷のアサヒビール茨城工場を見学。
- 3) 勝 沼：高速バスで釈迦堂下車、満開の桃の花畑を歩き蜂城山登山後、釈迦堂遺跡博物館見学とシャトーメルシャン見学（田中達彦会員の紹介）。
- 4) 上州富岡：世界遺産登録前に上信電鉄上州富岡の富岡製糸場を訪れました。発展途上国の留学生や将来指導者に国の発展のあり方（殖産興業の進め方）を学んでもらう場のひとつです。また、工女さん教育、健康管理や繰糸場には照明を設置してない（残業が出来ない）など企業経営にも参考になることが多々あります。
- 5) 銚 子：屏風ヶ浦を訪れ、銚子電鉄に乗り犬吠崎を訪れ、石上酒造（荒居美香会員の母君の里、地酒：銚子の誉れがある）を見学。

上記ハイキングのルートは全て同じではありません。今後の行き先は、標高差が大きい山、風光明媚なところ、文化遺産、伝統芸能、新鮮なおいしい食べ物と飲み物、ローカル線の利用などをキーワードに、会員の要望をとりいれながら決め、楽しいハイキングを挙行しましょう。



(中田 勲 記)

麻雀の会

日吉の商店街、あるいは三田の慶應仲通りの商店街の一角にある雀荘。

たばこの煙に包まれ、おばさんが出してくれた薄いお茶をすすりながら、手積みの牌をかき混ぜながら、尊い(?) 時時を過ごした学生時代。西東京三田会の麻雀同好会はそんな光景を時々思い出すような、和気あいあいとした雰囲気の中で麻雀を楽しませてくれるような集まりです。

麻雀の会が何時頃から活動が始まったのか定かな記録はありませんが、西東京三田会創立とほぼ時を同じくして麻雀の会が存在していたことがうかがわれ、伝統ある同好会であることが感じられます。

[事務局注：平成6年に初めて刊行された会報「田無・保谷三田会会報」に同好会加入希望者というページが設けられており、「麻雀」はその後も含めて同形式の会報に10名前後の名前を連ねて載り続けていました。しかし、実際に卓を囲んで実施したという記録はみつかりません。さらに意外なことには、平成13年に西東京三田会になり、平成15年総会時から、総会資料と別に全会員に渡されていた新形式会員名簿のサークル関係活動担当者表には、「麻雀」は平成23年までは載っていませんでした(27ページ参照)。]

現状は年5~6回の会合を行っております。大相撲のように、1月、3月、5月、7月9月、11月に開催しております。その会合を場所と呼んでおり、その都度優勝、2位、3位、7位、BBを表彰してきました。11月の場所は通常の表彰に加えて年間の最優秀賞を決める場所です。各場所の勝点を個人別に合計し、年間の最多得点者を最優秀者として表彰しております。このような運営方法を、久住さん、亀山さんが幹事時代に始動し定着させていただき、現在に至っております。

2016年(平成28年)の各場所の優勝者は光山さんが2回、高梨さん、牛島さん、原洋一さんが、それぞれ獲得されました。

年間優秀者の制度が始まってからの最優秀賞は2014年が圧倒的に原洋一さん、そして2015年は11月場所が行われず該当者なし、2016年は牛島さんが獲得しました。

わたくしたちの学生時代には考えてもみななかった最新の全自動(点数も自動計算)の雀卓で多くの皆様と楽しみたいと思っております。



さて、29(2017)年(暦年)も始まりました。そして、もう1月22日の初場所に続く、2回目の3月場所、3月26日(この日新横綱稀勢の里連続優勝)、いつものPジャン。13人参加。1位牛島氏。2位伊勢氏。

こういう気軽で楽しめるサークルです。皆さん次にはいかがですか？
(原 護 記)

カラオケ会

世話役からのメッセージ : カラオケサークルへのお誘い

カラオケサークルについて説明します。

サークルといっても入会手続き等面倒なことは一切ありません。世話役がその都度、日時・会場を決めてご案内し、参加ご希望の方に手を挙げていただくという仕組みです。

以前は年に2度ほど開催していましたが、このところ世話役の怠慢により活動が低調になっておりました。今年、西東京三田会が30周年を迎えるのを機に改めて活動を活発化させるよう努めますので皆様のご協力をお願いいたします。ご意見・ご要望などもお寄せください。

歌うことは脳の活性化に繋がるそうです。歳をとるにつれ、新曲を覚えるために大変な労力を必要とするという体験から考えると、覚えて歌うという行為は脳に強烈な刺激を与えるでしょう。楽しんで、ストレス解消できて、その上ボケ防止に繋がる、カラオケは斯くも素晴らしいものです。大いに楽しみましょう。勿論、カラオケを「ダシ」に飲んで喋るのもよし！「聴き役専門」もOKです。

奮ってご参加ください。

熱唱 あのひともこのひとも
(スナックペア)



2015.6.14 万年青 (おもと)

2014.12.7



(皆川 雅紀 記)

ブルーベリー摘み会

ブルーベリーはツツジ科スノキ属の落葉低木、樹高 2m ほどの木の各枝には 1cm ほどの青紫色の実がびっしりと生えていて、背の低い子供も背の高い大人も思い思いに摘むことができます。日本では昭和 40 年代の初めに東京農工大学の先生が米国から取り寄せたものが最初らしく、小平を中心にこの地の気候に適したラビットアイ系の栽培が広まったといわれています。ブルーベリー 1 粒の中にはからだに嬉しい栄養がたっぷり含まれています。アントシアニンは抗酸化作用を持ち眼精疲労回復や生活習慣病の改善、花粉症の緩和に有効で(諸説あり)、食物繊維、ビタミン C、ビタミン E もたっぷり含まれています。

西東京三田会では 2011 年 8 月に有志が東久留米三田会会長(当時)野崎陽一さん経営のブルーベリー園を訪れて、ブルーベリーを摘み、そのあと木陰で喉を潤し大いに楽しんだのがこの行事の始まりです。この時集まったのは男性会員 8 人程でしたが、その後平日から日曜日の開催になり家族連れも増えて、基本的に参加者が増えています。

一度ブルーベリー摘みをしてみたかったという初参加者も、今年も沢山摘んでジャムにしようというリピータもいて摘みながら、おいしい食べ方や効果的な保存の情報を交換しています。集めたブルーベリーは収穫量に応じた代金を払ってお土産にします。

収穫後は野崎邸の屋敷林に囲まれた庭にてビールやソフトドリンクを飲みながら歓談し夏の夕暮れをのんびり過ごすのが常となっています。

これまでの、この行事の様子は下表に示す News letter に掲載されています。

(News Letter は西東京三田会のホームページから閲覧できます)

ブルーベリー摘みを楽しむ会開催記録と掲載 News letter

	開催日	曜	参加	報告ニュースレター	本文及び関連記事執筆者
第 1 回	2011 年 8 月上旬		8	第 9 号 2012 年夏	久住眞太郎
第 2 回	2012 年 8 月 8 日	水	21	第 10 号 2012 年冬	久住眞太郎
第 3 回	2013 年 8 月 10 日	土	29	第 12 号 2013 年冬	久住眞太郎、野崎陽一
第 4 回	2014 年 8 月 17 日	日	23	第 14 号 2014 年冬	宮本敬一
第 5 回	2015 年 8 月 2 日	日	26	第 16 号 2015 年冬	宮本敬一、町田栄一郎、大野一美
第 6 回	2016 年 8 月 7 日	日	33	第 18 号 2016 年冬	宮本敬一、荒居美香、稲木雄一郎

参加者数は写真からの推定を含む



東久留米三田会の野崎様の農園にて、ご配慮をいただいて実施しています。



28年度も8月7日(日)に行われ、連日の猛暑のなか、坂口会長ほか小平三田会員、さらに野崎さんも加え、会員20名、同伴者など総勢33名と盛会でした。



(宮本 敬一 記)

たけのこ掘りを楽しむ会

現在顧問の佐田一江氏の尽力により平成 25 年に始められました。

とてもユニークな会です。武蔵野にわずかに残されている大先輩の高橋邸屋敷林で行われています。高橋敬一さんは S17 年政卒で、普段は杉並区久我山のお宅におられますが、私たちの会をはじめ、この屋敷林で行われる諸行事の際は必ず足を運んでくださいます。

お子さんの貴重な自然学習の場にもなり、ご家族にとっても貴重な経験ができます。たけのこ掘りだけでなく、屋敷林内のいろいろな植物の観察会、そのうちの珍しいものを使ってのテンプラも！

27 年、28 年の記録を見てください。

[27 年度]

5 月 3 日(日)に行われました。総勢 50 人超という三田会の会内行事としては過去最高の参加者で、しかも会員 27 名、うち 26 年度以降の新会員が 13 名、新鮮な集いとなりました。天気もよく、「たけのこ」は、たくさんとはいかないまでも、みなさん収穫の喜びは味わっていただけました。大正 7 年生まれで前々日誕生日だった高橋敬一さんは、「98 歳目の 2 日目」でした。

[28 年度]

5 月 1 日(日)、第 4 回目、「たけのこ掘りを楽しむ会」です。折りしもこの日、高橋邸「おかしら」高橋敬一さんのお誕生日。大正 7 年お生まれで満では 98 歳も、99 歳(=白寿)目の初日。塾グッズから、還暦の「赤ちゃんちゃんこ」ならぬ派手に慶應カラーで彩られた英国製「応援マフラー」でお祝いしました。

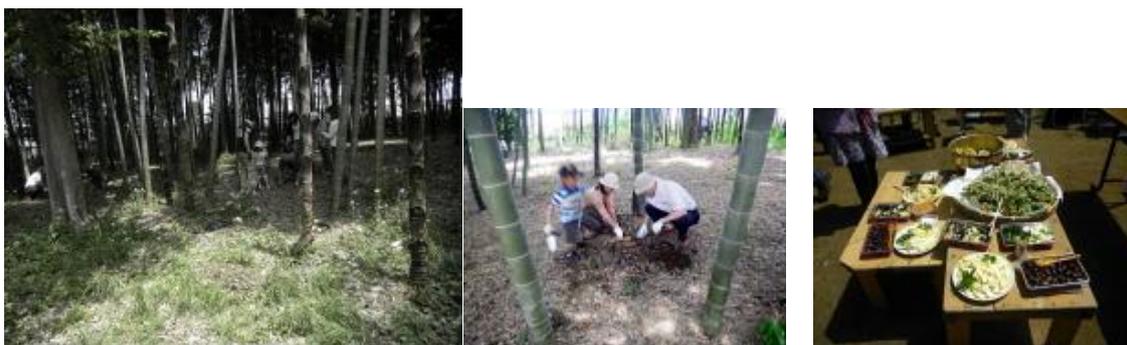
たけのこは参加予定者から 4 月 22 日時点で、「もう終わった、如何なされますか」のメ



ールが入信。これに対し、西東京三田会レディース応援者として、「たけのこは期待薄だが楽しい懇親の場を用意する」旨発信。さて、当日。風もなく穏やかな天候。なんと事前にお申し込みの会員は一人の落伍者もなく全員参加。「たけの子」ならぬ 3 メートル長、直径 20 センチもある「たけの少年」の横に、ちゃんと掘るに値する「たけのこ」有った！

全ご家族「掘る」経験も叶い、楽しく感動的な一日を過ごすことができました。

武蔵野にわずかに残されている大先輩の高橋邸屋敷林



お子さんには貴重な自然学習の場です。屋敷林内のいろいろな植物を使ってテンプラ！

「西東京レディース」の活躍の場でもあります。



高橋敬一さんも上機嫌



なごやかな光景

(佐田 一江、樋口 明朗 記)

市内歴史散歩会

私たちの地元の歴史は、大勢の方が関心をお持ちです。

平成 22(2010)年 3 月 21 日、田無神社などの見学をして、「市内歴史散歩会」の企画が考えられました。そして次のような開催基本方針で行うことにして実施してきました。

[基本方針]

- 1 歩いて回ることを原則とし、健康保持の一環とも考えて実施する
- 2 集合時間(9時半とする)に、指定西武線駅改札前の集合場所に居た者を参加者とみなす
- 3 12時前後に西武線駅着になるようなコース設定を原則とする
- 4 雨天は集合場所での 9時半の状況によって最終判断する

回	日付	人数	表題	概略見学地
1	23.11.20	10名	日蓮宗下保谷域を歩く	福泉寺、大泉堀、天神社、題目庚申塔、又六石仏群
2	24.03.11	6名	上保谷四軒寺を歩く	如意輪寺、宝来院、宝冠院、東禅寺、昇殿神社、青面金剛庚申像
3	24.11.25	7名	西東京南部を歩く	南芝久保庚申塔、持宝院、玉川上水
4	25.02.17	8名	宿場町田無を歩く	観音寺、下田家、総持寺、田無神社、柳沢庚申塔、六角地藏
5	25.09.29	6名	市城南東部を歩く	六角地藏、柳沢庚申塔、水川神社、引込線跡、下野谷公園
6	27.02.22	4名	小平発祥の地を尋ねる	小川橋、小川寺、神明宮、野火止橋
7	28.10.02	10名	市域西北辺を訪ね歩く	自由学園、引込線跡、石蔵六角地藏、青面金剛庚申塔

小平在住会員も多く、小平も「地元」意識でくみいれていましたが、小平三田会が独立した現在、西東京市域は一度ほぼ全部回り終わりましたので、今後は過去ルート再踏破や新ルート開拓などを考えているところです。

「青面金剛庚申塔」、調べてみると面白いですよ！！



(樋口 明朗 記)

「素焼き人形を作る会」・「木の枝で人形を作る会」

国立の「アトリエ・パネンカ」、曾根原様宅、佐田様宅と会場を使わせていただきながらこれまで西東京三田会の会として 5 回程開催してきました。テラコッタの土を使いそれぞれ思い思いの形を作ります。初めは戸惑いながら、進めていくうちに形になると思わず入り込む。粘土いじりは童心に戻り雑念がない気持ちに暫し自分を浸し癒してくれます。作り終わると少し豊かな気持ちになれるようです。



木の枝で作る人形は当初保谷の高橋様の屋敷林での開催予定で、屋敷内の木の枝を事前に調達し準備しました。当日雨模様のあいにくの天気でしたので佐田様宅での開催となりました。部材を各自選びながら組み立てていきます。足がついて動きが出てくるとがぜん面白くなります。そこからは自分の世界に入って各自独創性を発揮。出来上がりは全く違うマリオネット人形たちが並びました。その年の「写真・作品展」

でお披露目され、それぞれ個性を光らせていました。

私は今後小平三田会「アートクラブ」の活動としてワークショップ・展示会などのお誘いを発信していく予定です。皆様のご協力をよろしくお願い致します。

(吉川 潔 記)

その他実績のあった親睦会

ニュースレターを見ると現在は残念ながら続いていない各種サークルが行われたことが判る。

ニュースレターはホームページで第 1 号(2004.6.6)からみることができる。

現在も続いているゴルフ、ハイキング、カラオケ、グルメ、写真や最近の新企画以外の記録をみると

News Letter 1： 第 1 回ダンスパーティー(2004.1.24) 写真には 28 人程見える

News Letter 2： 第 2 回ダンスパーティー(2004.12.19) 華麗な様子が見える

「五行歌の勧め」 渡辺浩庸、「五行歌の会について」直井徹也 記事あり
旅行会 宝川温泉に奥村・高梨・直井・鈴木の 4 名が行った記録がある

News Letter 3： 開催記録はないが、「ダンスを楽しみましょう！」の社交ダンス部記事がある

News Letter 4： 五行歌の会の『けやき』2 号発行の記事がある

News Letter 5： クラブ担当者の表があり、ゴルフ、カラオケ、写真、ハイキング、グルメの 5 つ

初期会報の希望者名簿にあった囲碁・ボーリング等については実施記録が見当たらない。麻雀も記録がない。一方で家族的新企画も始められ、親睦会の消長が感じられる。

(樋口 明朗 記)

地域活動・塾との連携・近隣友好会との交流

地域社会活動及び塾との連携活動は下記のような4テーマの活動があります。

1. 10年以上続いている全日本空輸(ANA)羽田機体整備工場見学支援活動(航空教室)
2. 地域での自主企画と依頼事項からなる単発のイベント
3. 慶應義塾への協力や呼応活動
4. 近隣の稲門会や三田会等との交流

ANA への小学生社会科見学支援 (航空教室)

経緯

ANAの協力を得て、日本の将来を担う子どもを対象にした企画は平成18(2006)年、当時の高梨会長が西東京市教育委員会と調整し小学5年生の社会科見学を支援させていただくことで実現しました。この内容は社会科単元「工業生産を支える人々」(教科書では自動車工業を例示)に対応しています。

見学準備

まずANA関係部署へ前年の御礼とお願いに伺います。一方、教育委員会と前年の反省及び改善事項について協議をし、3月下旬までに見学希望校最大4校の選定を依頼(生徒数各校とも90名以内)します。そして見学日決定次第、ANAに教室会場手配をお願いします。見学前の実踏の際には、生徒の質問事項を事前に提出していただき、中野会員作成の航空基礎知識テキストを配布、見学実施時の諸注意、質疑応答マナーなどを打合せます。

見学当日

観光バスに支援者が2名ずつ乗車し、担任と相談しながら航空に関する事項をクイズ形式で学習します。内容は航空全般、機体材料(特に強化炭素センイ)、マッハ数などです。また都心通過に合せ主な建物などの説明をします。更に、日本で開発の飛行機(ホンダ・ジェット、MRJ、JAXAほか)の話をし、会場では講義開始前に航空機部品、炭素センイとアルミ合金部品などの展示物を触りながら体感してもらいます。

①機体整備：工場見学に先立ち、羽田空港設備、機種、空港で働く人々の紹介、翼模型を使った飛翔実験、安全維持のための整備システム、飛行機製造(会の要請でボーイング社の組立過程)などを学習。その後ヘルメットを被り、格納庫に入り、プラットホームで左右から挟まれたジェット機を3階から地上階まで見ながら降り、エンジン近くまで行き、機体を支えるジャッキ、タイヤ、工具なども、くまなく見学します。この間、支援者は生徒の安全、質問の支援を行いません。工場の外は滑走路で、飛行機の離着陸を見学します。

②パイロットのお話：昼食後、現役のパイロットから、どのようにしたらパイロットになれるか。安全なフライトの様子、持ち物(カバンの中身)、女子パイロットなどについて予め出されていた質問状にも答えながら話していただき、会場での質疑応答を行います。

③キャビンアテンダント（CA）のお話：安全のための訓練と機内サービス、救命胴衣（生徒の試着も）と服装の事などが、質問状の回答を織り込みながら進められます。講義後、②③の講師と共に記念撮影を行い、教室は終了し帰路につきます。

④帰路：車中で見学のフォローアップを行います。航空関係で興味をもった分野（デザイン、パイロット、CA、整備士）の一番人気はデザインでした。

その他 ①平成 28(2016)年度からパイロットとCAの配置、会場確保などの理由から、航空教室は整備工場見学の一般見学と同じになりました。午後は各校が自由裁量で見学先を決めます。平成 28(2016)年度は花王川崎工場で環境保全の学習をしました。

②11年間の延べ参加生徒数は 2703 名でした。

ANA羽田機体整備工場見学校と支援者一覧

年度	小学校名	生徒数	支援者 (敬称略)
2006	保谷第二 東	137	奥村榮吉 高梨勇一 直井徹也 中田勲 中野秀夫 弘津力 渡辺康生
2007	柳沢 東 谷戸 本町	282	鈴木條吉 曾根原良仁 高梨勇一 田中達彦 直井徹也 中田勲 中野秀夫 渡辺康生
2008	柳沢 保谷第一 保谷 保谷第二	297	鈴木條吉 曾根原良仁 高梨勇一 田中達彦 直井徹也 中田勲 中野秀夫 渡辺康生
2009	柳沢 保谷第二 本町 谷戸	273	鈴木條吉 高梨勇一 田中達彦 直井徹也 中田勲 中野秀夫 弘津力
2010	栄 本町 谷戸 碧山	283	宇賀神一雄 久住真太郎 佐田一江 鈴木條吉 高梨勇一 田中達彦 中田勲 中野秀夫 樋口明朗 弘津力
2011	保谷第一 保谷 本町 谷戸	278	久住真太郎 熊坂妃呂子 佐田一江 鈴木條吉 高梨勇一 直井徹也 中田勲 中野秀夫 林頼子
2012	東伏見 保谷第一 東 芝久保	299	伊藤信明 熊坂妃呂子 鈴木條吉 曾根原良仁 高梨勇一 高橋信一 直井徹也 中田勲 中野秀夫 林頼子
2013	柳沢 谷戸 谷戸第二 東	281	大平一 北村礼子 熊坂妃呂子 坂口光治 佐田一江 中田勲 曾根原良仁 高梨勇一 中野秀夫 樋口明朗 渡辺康生
2014	東伏見 保谷第一 柳沢 谷戸第二	215	亀山仁史 熊坂妃呂子 坂口光治 鈴木條吉 高梨勇一 直井徹也 中田勲 中野秀夫 宮本敬一 渡辺知加真呂
2015	保谷第二 柳沢 東伏見 谷戸第二	297	熊坂妃呂子 坂口光治 佐田一江 鈴木條吉 高橋信一 中田勲 中野秀夫 樋口明朗 宮本敬一 渡辺康生
2016	谷戸	61	坂口光治 篠崎哲雄 中田勲 中野秀夫
	参加児童合計	2703	

注記 ①2014年 柳沢小、台風のため参加中止 ②2017年 柳沢、本町、東 谷戸の4校参加予定



(中田 勲 記)

自主企画と依頼に応えた活動

地域社会貢献を目的にした最初の活動は市民フォーラムでした。地域社会活動を自主企画と依頼事項に分けて述べます。

【自主企画】

- 1 市民フォーラム「健康を支える食品と安全」開催(平成 15(2003)年 3 月 15 日、コールド無地下ホール)。フォーラムは、社団法人日本機械学会・産業・化学機械と安全部門が初めて市民のために行ない、当会が企画から実施まで協力したものです。
- 2 健康フォーラム「冬に向っての健康 特に東洋医学の面から」医博・村田高明会員講演。(平成 16(2004)年 12 月 20 日、知的障害者施設・たんぼぼ)「春から夏に向っての健康―特に東洋医学の面からの話」について医博・村田高明会員、医博・韓晶岩会員が講演。(特別養護老人ホーム：健光園、平成 16(2004)年 4 月 25 日社会福祉法人千曲会共催)
引続きフォーラム開催を行なう予定のところ一部外部から自粛を求められ中断しています。
- 3 「宇宙のなぞと不思議」宮本敬一会員講演と演習。中原小学校演習の中で宇宙食の試食と紙飛行機(スペースシャトル)を配る。中原小 P T A の科学講座に対応した講座でした。計画から実現までに 3 年かかりました。
- 4 人形づくり：市民の方に一部公開講座として開催しています。

【依頼事項】

- 1 西東京市新任教員研修を開催。平成 20(2008)年 5 月 20 日 保谷庁舎にて参加教員 29 名。教育指導課から依頼が 4 月末にあり、プログラムを急遽作成①「人との円滑な接し方」(高梨勇一会員)、②「保護者とのコミュニケーション」(奥村榮吉会員)、③「実習プログラム概要説明」(中田勲会員)で構成し、実習(ロールプレイ)では国際ソロプチミスト東京一西(神津会長、沼澤副会長、渡辺理事)のご協力と奥村榮吉、鈴木條吉、中田勲の各会員が対応役と評価者をつとめました。翌年も実施しましたが会員の負担が大きく 2 年で終わりました。
- 2 「戦中・終戦直後の生活の話」について保谷小学校から依頼があり、曾根原良仁、佐田一江、中田勲の各会員が写真・資料を使い、戦時中に供出させられ、金属のない時代の暮らしの工夫について、クイズ形式で講演を行いました。
- 3 「昔遊び」の話について保谷小学校から依頼があり、校庭で S ケン、ヘビの尻尾掴みなど、校内での百人一首を佐田一江、曾根原良仁、中田勲各会員が実技指導を行ないました。

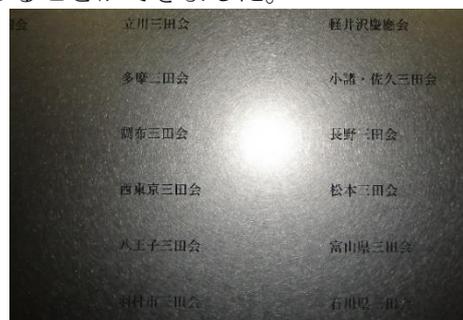
今後、いろいろなコミュニティーのニーズを会員が把握し、当会が対応をして行くことになります。

慶應義塾への協力や呼応活動

〔慶應義塾創立 150 周年記念事業募金の目標達成〕

2008 年 11 月、慶應義塾創立 150 周年記念式典が行われました。当会は高梨会長時代の 2006 年時点で 150 年にちなみ 150 万円の募集目標額を設定して、様々な呼びかけを強力に行い、最終的に 160 万円を超える募金額を塾に納めることができました。

塾が日吉の記念館に設置した協力者の記銘盤に当三田会の名も刻まれています(右の写真、松本三田会の左)。2008 年の式典には当時の直井会長他の会員が出席しましたが、「募金目標達成」という会員の皆さんの熱い塾への気持ちを背に、誇りをもって参加できました。



〔大震災、熊本地震時の義援金〕

2011 年 3 月に未曾有の被害をもたらした東日本大震災がありました。そして昨年 2016 年には熊本を中心に大地震がありました。当三田会は、被害者・被害地域に対しての義援金拠出を塾経由で行いました。受け入れ先は日本赤十字社、西東京市などがありましたが、慶應義塾だけは、団体がまとめて納入しても応募者リストにより個人宛に寄付金控除の証明書を発行してくれたからです。

当西東京三田会はいち早くこれに呼応し、両方ともほぼ 1 か月という短期間の制約の中で、東日本大震災に対しては、応募金 95 万円、会から 5 万円で計 100 万円を、また熊本地震に対しては、応募金 86 万円を塾に納入いたしました。

東日本大震災被災者・被災地に対する支援は、その後も一部会員により、気仙沼三田会との懇談、陸前高田ほか被災地訪問などが行われたほか、総会時の懇親会の席に被災地産品を展示頒布するなど、支援に協力しております。

〔連合三田会大会への参画〕

毎年日吉キャンパスで 10 月に行われる連合三田会大会の折は、当西東京三田会も幟旗を立てて島を作り、関係者の皆さんの立寄りができるようにしています。

毎年大勢の会員、また近隣三田会の関係者などが立寄ってくださっております。

割り当てられた大会券は、有志の方に個人的に求めています。その抽選権ではいままでのところ大きい賞品が当たったという話は聞いておりません。今後に期待したいと思います。

近隣諸友好団体との交流

〔西東京稲門会〕

お互いの総会、新年会、さらには稲門会栗拾いあるいはバーベキュー会などに招き招かれたりと親しい付き合いをしています。



東伏見の早稲田グラウンドで、ティーボール大会が行われたとき稲門会・三田会合同チームで試合をしたこともありました。

当西東京三田会のゴルフ会第1回以前にすでに稲門会のゴルフ会には当三田会員が参加していたことが古い文書にあります。稲門会の方が何事も先輩といえるのではないかと思います。

今回稲門会元幹事長の増本靖典氏は次のようなメッセージを寄せて下さっています。

“30年誌の発刊、真におめでとうございます。

さて貴会とは、主にゴルフ同好会を通して実に長くお付き合いをさせていただいております。実は近隣稲門会よりも長くそして深く交流させていただいております。またゴルフで一緒に遊ぶ皆さんは紳士的かつ友好的で、毎回感心しております。今後とも良きライバルグループとしてお付き合いいただきまようお願い致します。”

〔東久留米三田会〕

当初田無・保谷三田会に所属していた3人の会員が中心となり、当時の当会第5代奥村会長のハッパもあって、2003年4月に設立されました。以来もちろん諸主要行事では招き、招かれる関係が続いています。

2013年には立派な「10年誌」を作られており、いまや当西東京三田会を凌ぐとも見える充実さを目にしています。特に芸術関連においては、総会などの懇親会には塾の本格的クラブを呼ぶなど力を入れているようです。

野崎前会長の農園では当会のメインイベントともなっている「ブルーベリー摘み」の会をやらせていただくなど非常にお世話になっています。

連合三田会大会の折は過去の佐藤元会長・野崎前会長さんが当会幟旗の下によく来てくださる姿があり、思わぬ情報交換・懇親の機会となっています。

〔東村山三田会〕

2015年2月の新年会に初めて招かれて交流がはじまりましたが、実は直前、2014年に創立されたとのことでありました。当時は西東京三田会内に小平市在住会員を20人弱擁しており、東村山市は小平市域において隣接しているためご招待いただいたのでした。

以来招き、招かれる関係を続けていますが、主要な行事を開催するコンベンションホールが広く、且つ武道さえできる頑丈な演台があり、市内の各種芸能の保存会などを活用したアトラクションがうらやましく感じられました。

[小平三田会]

前年、2016年3月19日に設立総会を開き出発しました。当会奥村会長時代に東久留米三田会ができた「次は小平だ」とハッパを掛けられ続けていたものの頓挫していましたが、2014年に大幅に小平在住会員が増員された機会を活かし、何回かの小平三田会設立準備会を経て設立にこぎつけたものであります。2016年の当会新年会においては、当会から三色旗及び幟旗の贈呈が行われ、披露されました。

小平三田会は、独立三田会としてお客様付き合いをするとともに、西東京三田会当時の名簿情報などを活用して相互の親睦行事などの情報共有を従前のように行っており、お互いのサークル活動などに参加し続けることができるようになっています。その面では兄弟三田会の如くであります。

小平三田会の設立総会・祝賀会には大勢の当会会員がお招きいただきました。



[KP会西武支部]

KP会とは慶應(共立)のKとPharmacyのPを意味し、旧共立薬科大学卒業生と慶應大学薬学部卒業生で組織する同窓会の名称、ということであります。2008年4月慶應義塾は共立薬大と合併して慶應義塾内に薬学部ができるとともに旧共立薬科大学卒業生も仲間になったわけであり、KP会会員は恐らく新薬学部卒業生も居ないわけではないでしょうが、殆どは旧共立薬大卒業生と思われ、2016年にKP会での西武支部で活躍されていたお二人に当西東京三田会会員にもなっていただきました(お二人は両会で会員)。

KP会からのお招きには東大和市駅南の薬用植物園見学が取り込まれるなど「らしさ」を発揮しておられます。



西東京三田会 会員 の「こえ」 (寄稿)



会員からの寄稿をご紹介します。内容は大学の思い出、将来に向けての抱負など様々です。寄稿原文を尊重し、様式の統一化のための訂正程度のみ行いました。

以下、投稿された方々(五十音順、敬称略)

石毛茂、伊勢尚一、潮田康郎、宇賀神一雄、牛島康朗、大内俊、大平一、小笠原寿男、鎌田敏弘、亀山仁史、北村礼子、桐ヶ窪実、栗原幸雄、黒瀬浩一、小堀洋輔、斎藤嘉久、佐田一江、佐藤貢一、篠崎哲雄、新休泰三、鈴木條吉、曾根原良仁、高橋信一、宝井繁夫、田野倉克郎、智田秀穂、中田勲、中野秀夫、中野正道、中村邦彦、長沼善紀、原護、原洋一、樋口明朗、弘津力、町田栄一郎、松本洋平、三角節子、皆川雅紀、宮本敬一、三輪昭夫、村田高明、山崎忠、吉岡徳二、吉田耕司、渡辺康生、渡辺康隆

さらなる社会貢献活動を

H06 文 石毛 茂

西東京三田会が誇れることの一つに ANA の見学が挙げられます。高梨元会長等の御配慮により、永きにわたり多くの小学生の社会科見学を支援してまいりました。見学した子供たちが自慢げに楽しく語る姿は、子供たちに未来の夢を与え、地域から感謝もされてきました。福澤先生の精神がここにも息づいています。

今や社会はグローバル化して、地球の裏側の出来事も瞬時に伝わってきます。坂口会長がよく述べられている言葉に「シンク・グローバル、アクト・ローカル」という言葉があります。今、行政からも大きな地域貢献が期待されています。

将来において出来るならば、こうした事業を日頃お付き合いのある、西東京稲門会等と一緒に大学間の垣根を越えて、豊富な人材によって素晴らしい西東京独自のモデル事業が築かれることを期待します。

具の助けも借りながら少しは前進してきたような気がします。継続をもって趣味と言えるなら、古希を過ぎての趣味としての木版画を楽しんでいます。バレンで和紙に作品を摺りあげている時間帯は徐々に浮かび上がってくる絵柄に想いをはせたり、不出来な作品に腹を立てることは常ながら、木版画以外の事柄が念頭から飛んでいる瞬間があることも気に入っています。近年、「神宮三田会」と勝手に称して仲間と神宮での塾野球部の応援に力が入っています



が、今年は何としても優勝して三田の山への提灯行列を実現したく、思いを込めて別掲の「必勝」版画を摺ってみました。

た。

趣味の版画

S43 経 伊勢 尚一

在職中は自己紹介の最後に決まって「趣味無し」と付言してきました。往時勤め人定番の麻雀、ゴルフ、カラオケも偶然の賜物としてのハプニングはあれど、どの分野においてもおおよそ才能に恵まれていないわが身なれば、人並みには遠く及んでいません。

退職後に首を突っ込んできた幾つかの分野も才なし再発見の道なれど、木版画に関しては画才無くも彫刻刀・バレンなどの道

『田無 52 三田会 15』

S39 商 宇賀神 一雄

慶応義塾大学 4 年の秋、今は亡き母親と共に縁有って田無に居を構えて 52 年、三田会に縁有って御世話になって 15 年、あっと言う間の年月が経ってしまった。

高校まで過ごした大河ドラマ真田丸で名が知れた信州上田では、夏春休みに帰郷すると地元三田会と学生会合同の会合飲み会が頻繁に有り大学とは楽しい所だと今思えば少し勘違いしていた気がする。

卒業後は三田会ワグネル OB 合唱団とし

て活動していた事もあり、新しい居住者が多い東京郊外には三田会は無いのものと思ひ込み、50才頃まで凡々と過ごしておりました。

その頃から我が家に西東京三田会加入の葉書が頻繁に来る様になりました。我らの緒先輩達が東奔西走し三田会設立し拡充を図っていた時期なのでしょう。筆者も60才近くなり、御多分に漏れず定年後は何か地元活動をと色々しておるなかで「都市計画委員会」の会合でアイウエオ席次で奥村元会長の隣と言う縁があり、塾の後輩として和服ママの居酒屋で愛でたく三田会加入と相成りました。

以来ゴルフ係一員としてお手伝いしたり新しい出会いと思いを重ねており皆さんに感謝しております。

地元は心の拠り所

S62 政 潮田 康郎

私は去年の4月より名古屋駅前支店に転勤になり、今も名古屋でこの文を執筆しています。

月一回程度西東京に帰っていますが、日曜日の正午過ぎには名古屋へ向かって戻っている状況です。何度か三田会イベントのご案内を頂いておりますが、参加できなくて毎回残念な気持ちであります。

ところで2月11日に西東京ロードレース大会というマラソン大会が開催される予定ですが今回で17回目を迎えます。マラソン大会なるものは全国何処でも年がら年中開催していますが、やはり、地元愛でしょうか、わざわざ前の晩に名古屋から帰ってきて寒いなかを10キロを完走しようと意気込んでいます。おそらくこの寄稿が皆さま

の目に届くころは結果も出ていることでしょうが...

西東京がより住みやすい町となることを心から願ってやまない住人の一人としてこれからも地元を心の拠り所として大切にしていきたいです。

私の趣味と生活

S40 政 牛島 康朗

西東京三田会に入会して2年余りになりますが、この間いろいろな行事に参加させて頂き、ニュースレターには毎号写真が載るようになりました。例えば麻雀の会、カラオケの会、グルメの会、たけのこ掘りの会です。

もともと、私の趣味は読書、麻雀、カラオケ等の音楽、テニス等ですので、これ等の会は私の趣味にマッチしています。従って今後とも引き続き参加するつもりです。テニスだけは当会にはないので、杉並三田会でやっています。ゴルフについては、昔は毎週行っておりましたが、今は卒業し妻と娘に付き合っ年2回程行うのみです。

日々の生活では、この外毎日ウォーキングを行っており、買い物等を兼ねる場合もあり、現在では1時間弱になります。また、10年程前よりピアノの練習を毎日行っており、マスター曲もジャズ、ポピュラーに至るまで数十曲になりました。勿論発表会にも数回出演致しました。また暇があれば、ニュース、ワイドショー、ドラマ等のテレビを観ています。

小さな三田会

S57 経院 大内 俊

米国ミシガン州に駐在していた折、州立大学がある隣町に当時の石川塾長がいらっしゃる旨、所属していたシカゴ三田会から連絡が入りました。塾との提携とはいえ、名誉学位の授与式に塾長がいらっしゃることはないと思っていた私達は大慌てで、他社駐在員と塾員のご夫人を合せた 5 名、交換中の留学生と私費留学生 3 名、嘗て塾に留学経験のある米国人 OB 等々約 20 名で、細やかな三田会を開催し塾長をお呼びしました。塾長との懇談の中で、三田の図書館の大時計が大好きだとお話した処、塾長は満面の笑みで、「大時計はいつも我々を見守ってくれているんだ、君も米国での仕事と研究を頑張るように、Tempus Fugit だよ。」と言って下さいました。

雪が降りしきる厳寒のミシガンの冬、塾長が車に乗り込む姿が今でも心に焼き付いています。その後、塾長とお目に掛かる機会に恵まれませんでした。三田の時計台の文字盤を見遣る度に、塾長の優しい眼差しが甦り、Tempus Fugit と改めて語りかけてくれます。

大平 一の独り言

S39 文 大平 一

新年を迎え、齢 76 才となる。そして、今年の 5 月 22 日には我が家の恋人未満、人生の達観者、健康管理士ともいえる、「おっ家内」とも金婚式を迎える事となる。

同期の仲間は『辰巳年』なので早【喜寿の

会】をやろうと、メンバー集めに余念がない。

5~6 年前から朝起床の時の体の節々は油が抜けたように、動かすと節々はギシギシとうめき声をあげ、日頃の運動不足を訴えている。『そろそろ子供たちが見もしないアルバムや、ヘソクリで買い込んだ骨董品の焼き物などは、子供や孫は何の価値もわからないから、捨てられるよ〜〜!』、と「おっ家内」から言われ、恐れ慄いて老残の整理を始めた。

しばらく整理していたら書類の間に埋もれていた古いファイルの中から田無三田会増田会長あての入会届のコピーが出てきた。よく見たら平成 6 年 4 月 12 日付けだったから 20 年以上前の事となる。



前事務局長の斎藤毅さんにはいろいろ教えていただき会計、総務、企画、広報全般を H15 年から引き継いだ。総会の受付では会費未納の出席者からは纏めて数年分支払っていただいた方も数多かった。

平成 13 年から会長になった奥村さんは口を酸っぱくして ① 塾員は慶應義塾の繁栄に力を尽くせ！ ② 西東京市の為に地域貢献をせよ！ ③ 時間が余っているだろうから 会員が相互懇親のイベントを作り楽しい催しを開催せよ！ と宣われ平成 15 年から役員になって尻をたたかれた。

2~3 年ほど馬車馬のようにいろいろ会の活動に走り回っていたが、現在の理事やホームページを一人でバックアップしてい

る樋口副会長にははるかに及ばない。数年後一身上の都合で一時退会を余儀なくされ、その後、また縁の下の気持ちで手伝いをしている。NewsLetter18号を見るといろいろのイベントや、老若男女、家族でも参加できる催しも多く、今昔の感がある。

とても楽しい西東京三田会

S57 経 小笠原 寿男

西東京三田会に加入させていただいたのは、一通の手紙を頂いたことでした。その手紙の中に、楽しく活動されている冊子が同封されていました。そして、地域三田会をネットで調べたら、沢山の楽しく活動している写真を見つけました。しばらくして、新年会に参加しましたら、会場には「三色旗」が飾られ、「若き血」が聞こえ、瞬時に義塾に通学していた懐かしい時間を思い出しました。

仕事と両立させて無理せずに西東京三田会に参加しようと思い、グルメ会に申し込みをしました。世話役の長谷川さんからグルメ会のレストランへ快く迎えて頂きました。そして、グルメ会の方々と、料理を食べながら楽しい会話の仲間にも入れて頂き、とても楽しい時間でした。日吉、三田へ通っていた大学時代、とても楽しいサークル活動が原点でありました。西東京三田会も楽しいサークル活動が原点であると思っています。

13年間の塾生活

S54 工 鎌田 敏弘

あれは48年前の2月、雪降る三田キャン

パスで中等部一次試験に臨んだ。あれ以来、三田(山の麓)で3年、日吉で5年、矢上で5年、とても濃密で楽しい学生生活を満喫させて頂いた。そして6年前からは三田綱町道場で楽しい時間を過ごしている。

その中で、まざまざと蘇ってくるのは、中等部の3年間と體育會剣道部での4年間である。中等部では素晴らしき先生方(〇〇先生ではなく〇〇さんと呼んでいる)に教えて頂き、素晴らしき友々と出会うことができ、まさにあつという間であり、でき得るならばあの時代に戻りたい。

體育會剣道部では日本を代表する師範の先生方の教えを直に受け、眩い先輩方と剣を交えることができ、素敵な同僚を得た。運動神経に欠けている自分が今まで剣道を続けてこれたのは塾の剣道部だからである。

塾での様々な思い出を糧として楽しい人生を送ってこれたし、これからも送ることができると思っている。この伝統が永遠に続くことを期待しています。

西東京三田会への入会に至るまで

H08 経 亀山 仁史

西東京三田会に入会しようと思ったのは、今を遡ること7年前上京して右も左も解らなく、親しい人もいない西東京に居宅したからであった。そういうときに頼れるのはやっぱり結束力の強い三田会に所属するのが一番だと思ったが、勤務先三田会にも職種三田会にも該当せず、唯一インターネットで検索すると西東京三田会がヒットしたからであった。しかしながら事務局を探すにしても、今のように西東京三田会のホームページが無いころだったため、該当する

ものは、検索するも全く見つからなかった。ほとんど困り果てたすえ現西東京三田会会長の坂口さん宅電話番号の記載のあるサイトがあったため、電話すると奥様が出られ、当時会長であった渡辺さんの電話番号を教えていただき晴れて西東京三田会員になったというわけである。

地域に馴染むきっかけの三田会

S53 文 北村 礼子

30年前・・・自分は何をしていたかを思い起こしますと、夫の初めての海外駐在でアメリカにおりました。その後の海外赴任でもいつもその地域に馴染むきっかけを頂いたのは三田会でした。西東京三田会でも本当に温かく迎えて頂きました。それはある日突然一枚のお誘いのお葉書を頂いたことから始まり、勇気を持ってチャンスを掴ませて頂いたことからでした。

いつもの自分の行動とは違うことをすると何だか嬉しいものです。小さいことだとしても何かが変わって来て...

塾とわたし

S32 法 桐ヶ窪 実

私は港区芝浜松町で生まれ、終戦の翌年私立芝中学校に入学し27年3月芝高校を卒業しました。一橋大学と塾経済学部を受験しましたが不合格となり一浪して塾と早稲田の法学部に合格し、高3時代の担任に相談し塾に進学しました。

日吉では進駐軍が残したカマボコ校舎での授業が思い出されます。又学校の帰りに渋谷の喫茶店「らんぶる」でクラシック音楽

を良く聴きました。クラスの友人7名と黒姫山に登ったあと野尻湖に行った楽しい思い出もあり、現在も年1回のクラス会の他グループの友人と会うようにしています。

卒業25年と50年の招待会の他毎年卒業51年以上の塾員招待会もあり、塾に進学卒業して本当に良かったと思っております。

卒業生の満足度 —私立大学の中では慶應義塾大学がトップ—

S39 法 栗原 幸雄

数年前のことですが、日本経済新聞社がビジネスパーソンを対象に出身大学の満足度を調査し、その記事が同紙に掲載されました(平成24年11月5日朝刊)。大変興味深い内容でしたので、要約してご紹介します。

満足度の1位は北大、以下東北大、一橋大と続き、4位が慶應義塾大学で私学のトップ。東大が15位、ライバル校の早稲田は27校中の20位と、意外でした。

満足の理由は国立大では「教育の質の高さ」や「授業料の安さ」、私立大学では「社会的イメージ」が上位に入っています。

慶應、早稲田の比較でみると「教育の内容が優れている」が47%対29%、「卒業生のネットワークが充実している」では53%対19%と、大きな開きがあります。また、卒業した大学への寄付については、経験者の平均は31%ですが、1位は慶應で61.7%、早稲田は39.6%、両大学の寄付金収入では倍額以上の差があります。

この調査結果は三田会が地域で、職域で活動し、また連合三田会で組織され国内はもとより広く海外でも活躍し、社会に貢献していることの表れでしょう。例えば、私のいたA社グループでも「かなめ会」と云って

卒業生がその当時 1,000 人ほど登録され、相互交流や情報交換をし、時には塾の記念事業その他で寄付も行いました。

あらためて三田会に参加していることに感謝しつつ、会の組織を地道に育てていくことが大切であると思われま

同窓という不思議な縁

S62 商 黒瀬 浩一

同窓とは不思議な縁だ。同じ大学を卒業することで、そこはかたない共通のものの見方や考え方がいつの間にか身に着く。そして、様々な三田会の機会を通じて、それが慶應義塾の創設者である福沢諭吉先生の教えが源流であることを知る。

私の場合、西東京三田会の他には、128 期三田会、128 期猛虎会（阪神タイガース応援）、体育会少林寺拳法部三田会、更には退任されて名誉教授となられた恩師の先生が私的に続けられている勉強会の事務局なども務めさせていただいている。

こうした交流を通じて得られた知遇は誠に貴重なもので、いくら感謝しても仕切れないと思っている。しかも、ある程度の年齢を超えて社外の人と接する機会が多くなるにつれて広がりや深みが加速している実感がある。

これからも慶應義塾と多くの接点を持って生涯勉強を続け、そして、恩返ししたいと思います。

西東京三田会と新しいメディア

S50 工 小堀 洋輔

西東京三田会も 30 周年を迎え、記念誌

の発行を準備しています。

ホームページは PC からの閲覧で、スマホからは文字が小さくなり読めない。

これからの時代、どこでも手軽に情報を共有するにはスマホから見れたらいいのではないか。

また、会員間の情報の共有の場として、facebook や twitter を利用できれば、会員相互の情報の共有も活発になるのではないだろうか。一方で、IT メディアの普及は、会の個人情報保護のあり方も考えていく必要もあろう。

今は、30 周年記念誌の紙の情報の次は、新しいメディアでの情報発信・共有が期待される。

塾との縁

S54 政 斎藤 嘉久

旧制中学伝来の校風なのか北関東の高校の進路指導は国公立優先。現役時私学で唯一受験したのは早稲田大学。結果は全敗。これが塾とのご縁の始まりとは失意の 18 歳には知る由もなかった。

親から離れたい一心でわざわざ上京しての浪人生活が分水嶺だったようである。やはり田舎と空気が違うのか、“そういえば KEIO という大学もあったじゃないか”

思えば入社以来、社内の先輩に始まりお客様、取引先、果ては女性陣からも官学か早稲田タイプと言われ続けてきた小生。そのままそちらの方へ進んでいたらどんな人生になっていたことか！

KEIO に進み生来の気質、育ちが程よく中和され?普通の人生を歩んで来れたとも思える。塾では良き友人、尊敬できる師にも恵まれ 5 年間! という豊かな時間を過ごす

ことができた。

還暦を過ぎ改めて<塾との縁>に感謝する日々である。

たけのこ掘りの裏ばなし

S33 文 佐田 一江

大先輩(S17 政)高橋敬一氏の庭で、5年前からたけのこ掘りが開催されています。高橋氏は H28 年に 99 歳の白寿を迎えられました。

大先輩の屋敷林の何分の一かは既に市の土地になっているので、三田会の集まりは市の許可も必要になりました。町の有志三人のお力を借りて、ようやく H28 年 5 月 1 日に 4 回目を開催する運びとなりました。ところがその前々日に地元の集会有り、たけのこも掘るので、三田会の方は残らないかもしれないという連絡が入りました。急遽駅前の花屋さんの竹林から、当日の朝にたけのこを掘っていただくようお願いしました。樋口さんも別のルートから朝掘りのたけのこを入手し、当日運び込んでくださいました。開催当日入会したばかりのレディ並木さんの協力を得て買い物に行き、業務用スーパーで天ぷら油、調味料、飲み物、紙の皿やコップ等を買って、高橋家の庭の台所に運びました。

当日は朝早くから地元の方々が庭や台所、トイレの掃除もしてくださり、手作りの机を並べ、煮物の準備までしてくださりました。庭のよもぎ、山椒、お茶や柿の葉などの天ぷらは、熊坂さんが揚げてくださり、手作りの漬物も沢山提供してくださりました。

高橋氏は昨秋大腿骨を骨折なさり、無事に回復なさったと聞いています。私たちは大先輩を見習って、多くの人々のしあわせ

のために貢献できるような会員でありたいと思います。

めざせ生涯現役

S48 経 佐藤 貢一

塾には普通部、塾高、大学と都合 10 年間お世話になりました。就職して、壮年期頃迄はさして意識していなかったのですが、この年になってみると塾で過ごせたことによる幅広い交友と人脈の恩恵に有難味を実感しています。

私は 1981 年、30 歳の時に品川区から旧田無市(芝久保町)に引っ越して来ました。18 年間居住後、旧保谷市(柳沢)に移り、ほどなく両市の合併で西東京市民となりました。

本会には、2016 年 9 月に市民会館竹の間で開催された新入会員歓迎会でデビュー。二度目の定年を間近に控え、まさしく絶好のタイミングでの入会でした。以来、グルメの会、麻雀の会、たけのこ掘り、歴史散歩などで皆さんとの交流を深めています。

会には塾員ではない妻も折に触れ行事に参加させていただいています。家族ぐるみで付き合えるオープンな環境も三田会ならではだと思います。今後も元気な諸先輩を見習い、生涯現役をめざし 70、80 と年齢を重ねても活動に参画できるよう努めてまいります。

カウンセリングで社会貢献

S46 工 篠崎 哲雄

会社勤めを止めた 2 年ほど前から、社会貢献を念頭に、大学でのキャリア教育ボラ

ンティアや本会での活動などを始めた。本会では2014年度に入会して以来、塾の諸先輩などとの懇親会や地域貢献活動、役員会などへ参加している。私は在職中から、特に



最後の十数年間は、職場で発生する課題の解決を目指したカウンセリング活動に力を注いできた。私のカウンセリング活動の中核となる傾聴

は、人間自身の心の成長、円滑な人間関係構築など人間を支援する手段として非常に有効である。この傾聴を体験学習して社会に浸透させる等の社会貢献活動を生涯ワークにしたいと考えている。また、この傾聴を心理学、情報処理に跨る文理融合のAI技術によりコンピュータでカウンセラ機能を実現する研究活動(CoReCo 研究所)もあわせて進めていきたい。カウンセリングはやはり女性のカウンセラにしてほしいなどの意見もありますが...!? これらの活動のいくらかでも、三田会の活動を通して社会貢献に結び付けられればと思っている。

これからやっておきたいこと

S41 経 新休 泰三

趣味に生きるという生活は、素晴らしいことですが、結局自分の満足の充足にほかなりません。ここまですれば、何か「ひとのため」という要素が、どうしても欲しくなってきました。それで認知症予防の老人会を思い立ち、四年間続けていますが、どうももの足りなく、さらに障害者の手助けも始めているところです。自分のこともろくにできないくせに、と言われそうですが、

自分のことだけというのは、なにか味気ない感じがします。

この西東京三田会では、その趣旨で「人助け」の催しをいくつも手がけてこられ、大変たのもしくかつ自慢に思っております。この活動には、私の時間的都合もありますが、ぜひとも参加していきたいものと考えています。市の公報などみると、無数のボランティア会が行われていますが、割と相互扶助や弱者支援を目的にする催しは少ないようにおもいます。

会員相互親睦、地域協力、そして被災地支援も

S44 政 鈴木 條吉

(編集注:鈴木氏は健康上の理由から原稿をいただけなかったので、力を注いでいた被災地支援に触れた News Letter11 の巻頭言を転載させていただきました。)

先日、三鷹駅北口広場の林の中に、『山林に自由存す』と彫られた独歩碑が何気なく目に止まり、ああ独歩の碑が此処にあるのかと、思わず見入ってしまいました。

ご承知の通り、私たちが住んでいるこの辺りは、独歩の愛した山林が広がる武蔵野台地です。その数日後、保谷駅北口から程近い処に在る高橋敬一大先輩の屋敷林で、竹の子狩りをする機会を得、まさに独歩が歩いて出てきそうな竹林の中で、竹の子を掘る体験をすることが出来ました。このような自然が残る地域で活動させて頂いている西東京三田会は、本当に恵まれているなあと感じているところです。

今年度もひき続き、会員相互の親睦を図りながら、塾への協力、地域への協力を常に心に留めながら被災地支援も進めて参りたいと思っている次第です。

東日本大震災から2年が経ち3年目に入

った今でも、まだ瓦礫の撤去すら出来ない地域が残されている現状を見聞きして、居ても立ってもいられない思いでした。平野会員の発案、先導により、三田会員有志5名で、津波の被害を受けた三陸海岸へ6月1,2日で行ってまいりました。事前に気仙沼三田会の佐藤会長(気仙沼漁協会長)と打ち合わせ、被災された現地を視察、復興まではかなりの年数がかかると認識しました。

佐藤会長からの要望は、ボランティア活動が一段落した今、来る人が減って、海産物の売上も減少しているのです、多くの人に来てもらい、各種産物を買って欲しいとの事でした。今後西東京三田会としては無理のない範囲での支援として、皆様へ、三陸物産案内をしたいと思っておりますので、どうぞご協力の程お願い致します。また佐藤会長のところの定置網が秋から復活しますので、三田会有志で定置網漁を体験し、唐桑カキ小屋で獲れたてカキを食す企画も立てたいと思います。

みちのくの 蟹と遊び 白砂に

青松流れ 原生花咲く

陸前高田にて

六十歳の青春

H03 政 曾根原 良仁

1986年の新春、「お父さん、毎日飲んでるより大学で勉強したら、我が家にとってもあなたの健康と出費を考えたら一石二鳥よ。私が慶應大学の通信教育部の入学手続きをしてあげるわ。頑張って卒業出来たら一石三鳥よ。」

私はすでに市議会議長も経験し、小さな会社も経営しているし、今さら学歴の必要は特にない。しかし、戦後の混乱期に高校を卒業し、向学の志をもちながら実

社会に出た私の心の隅には、大学の2文字に深い拘りがあった。

六年間で卒業する約束をし、妻の提言を受け入れ、五十四歳で法学部政治学科に入学した。福澤先生の建学の精神は、教授にも施設にも通教の生徒に何らの差別はなかった。先生も、三田山上の浜木綿(はまゆう)も、日吉の銀杏並木も温かく迎えてくれた。スクーリングでは素晴らしい学友に恵まれた。

五年たって卒業証書を手にした。そこには疲労も倦怠感もなく深い満足感と六十歳の青春があった。

思い出

S47 工 高橋 信一

私が当会に参加したのは、田無・保谷三田会になる直前だったと思います。当時慶應義塾の理工学部の教員として毎日のように日吉に通っていて、ほとんど会員としての活動は出来ませんでした。本格的には6年前にリタイアしてからで、News Letterの編集などにに関わり、凶らずも鈴木條吉前会長の後を継いで会長を2年間務めさせていただきました。柄にもないお役目の最初に取り組んだのは新会員の勧誘でしたが、会員の皆様のご協力で相当な数の方に加わっていただきました。それが呼び水となって小平三田会設立の機運が盛り上がり、昨年創立の運びとなりました。関係者の永年の熱い思いの結実です。さらに情報発信のツールとして、西東京三田会の公式ホームページも立ち上げることが出来ました。この2年間の間に内容も充実して、当会の活動をより身近に知っていただけるようになったと思います。全て皆様のご協力があったれ

ばこそと思います。若い役員の中から新たなサークル活動の提案も出て来るようになりました。私も事務方として、今後とも出来ることをさせていただき所存です。

創立 30 周年に寄せて (30 年、過去と未来)

S52 商 宝井 繁夫

当会が創立された 1987 年は天安門事件に始まり、国鉄の分割民営化、携帯電話やアップル PC の登場などその後の社会の在り方を大きく変える年でした。

そして 30 年後の 2017 年も格差拡大、分断、保護主義の台頭、移民問題などこれまでのグローバリゼーションの歴史的な転換点となりそうです。次の 30 年は果たしてどんな時代になるのでしょうか。

私は結婚と同時に保谷に移り住み 30 年余りになります。この地で生まれた長男も今年 30 歳になります。あっという間の半生でしたが、今は仕事をリタイアし、昨年从小中学生向けの「無料学習塾」で学習支援のボランティアをしています。子供たちがその生まれた家庭環境の如何によらず等しく教育の機会を得て、誰もが前を向いて歩ける未来が来たらよいと思います。

いま改めて福沢先生の「自由、独立、平等」の精神を子供たちに、次の時代に伝えたい、微力ながらこれからの時間をそんなことに使えたらと思います。

塾と私

S39 商 智田 秀穂

私は昭和 39 年に卒業しましたが、学生時

代の四年間は KMC(慶應義塾マンドリンクラブ・1910 年創部・日本の大学では最古)に在籍しました。

四年次には学生指揮者となり、常任指揮者・部の先輩で作曲家の服部正先生の指導の下で編曲を手掛け、春・夏のオフシーズンには全国を演奏旅行しました。そういう縁で、退職後当時の同期を中心に 13 名でアンサンブルを編成し、以来毎年秋に三田の慶應大学北館ホールで定期演奏会を行ってきました。(昨年は第 13 回目を実施しました)約 250 名収容の小ホールですが、お陰様で毎回ほぼ満席であり、当三田会からは渡辺康生・弘津 力・宇賀神一雄・鈴木條吉の各氏にお越しいただいております。

又、三年前の西東京三田会新年会ではクィンテッド(5 人)で演奏させていただいたのも今となっては懐かしい思い出です。



レパートリーは年々増え続け今では和洋硬軟約 400 曲になっており、定期演奏会のための月一度の練習、秋の合宿に加え、年間 6~7 回の老人福祉施設への訪問を続けています。

今年で 76 歳になりますが、今あるのは全て KMC のお蔭であり、メンバーが元気である限りこの活動を続けていこうと思っています。

駅 伝

S36 工 中田 勲

入学した 1957 年(昭和 32)から従来専科(機械工学、電気工学、応用化学、計測工学)別にクラス編成されていたのが、卒業後の人脈の幅を広げやすいことも配慮し、日吉在学の 1 年次は混成で編成したと、担任・淵田一雄名誉教授(ドイツ語)から話がありました。クラスでは親睦を兼ね、防衛大学見学、小内河内ダム内見学など小旅行など行い徐々に纏まって行きました。秋には工学部全学科クラス別対抗駅伝(*)が行なわれることがわかり、早速、春一番の体育授業・体力測定の一つ(800m)の時間を参考に選手を選び、日吉-綱島や日吉-多摩川往復の練習を重ねました。[*:駅伝は三田(塾)・小金井(工学部)間を 7 区間に分け、各区間を 2 人一組で走り、2 人が着くまで次へスタートできないルール。駅伝は当時畑の多かった五日市街道が使われました。] レースは、優勝候補の機械工学科 4 年を終始大きく引き離し、我々 1 年 B 組がトップで走り優勝しました。(小生は高井戸-吉祥寺間を担当)、ゴールの小金井グラウンドでのキャンプファイヤーで大いに盛り上がり、楽しい思い出となりました。クラスはこの優勝で一段と「絆」を深め、卒業後も日吉でクラス会をしばしば行っています。

なお、箱根駅伝でも 2 年のときに機械工学科から選手が出ております。しかし、残念ながら、塾は 1994 年を最後に出場していません。正月の話題として代表出場して欲しいものです。(なお、箱根駅伝では 1 回優勝しています、参考まで)

「航空教室」の 10 年

S38 経 中野 秀夫

西東京三田会は地域社会への貢献の活動として、2006 年から地元西東京市の小学校社会科見学のお世話を始めた。ANA の機体整備工場の見学である。

このコースは人気が高く、希望する日にまとまった人数で予約をとることは殆んど不可能な状態であったが、当会会員の ANA の OB から特別にお願いをして年に 4 校の見学を受けてもらうことが出来た。さらに見学のあとでパイロットやキャビンアテンダントの話聞く「航空教室」を企画し、ANA の関係部署に要請したところ、何とか協力してもらえることになり、充実した社会科見学のコースが出来上がった。

しかし交代制で勤務している乗員の人たちの手配は簡単ではなく、その上、工場見学の後、児童たちがお弁当を食べ「航空教室」を行う場所を確保するのが予想以上に難しかった。



最初の数年間は頻繁に会場が変更になり、その都度、関係部署との事前の調整に走り回るという状況であった。その後、ANA 側の配慮で工場に隣接する講堂を使用することが可能となり、後半の 5~6 年は定着していたが、2016 年からその講堂も使えなくなったため 10 年間続いた「航空教室」の継続は不可能となったのである。

カイロだより

S51 文 中野 正道

カイロに暮らして今年で 34 年目に入りました。人生の半分以上をここカイロで過ごしております。私が、初めてエジプトを訪れたのは 1983 年、サダト大統領が暗殺された二年後でした。その後、湾岸戦争、ルクソール事件、9.11 NY テロ、イラク空爆、エジプト革命(アラブの春)、事実上のクーデターなどを直接・間接的に様々経験して来ました。

そのような経験から日本人として、また国際人としてどのようにこの国の人たちと向き合っていくべきか考えさせられて来ました。エジプト人は、未知の可能性を持った能力を有する人材が多く、尽きない魅力を感じております。

2011 年初頭の革命以降、新たな政権が誕生しては瓦解するという混沌が続いており、経済的にも停滞しておりますが、いずれ必ずや再生の道程を歩むものと確信しています。

さて、私がこの地で所属しているエジプト三田会は、2008 年アフリカ大陸で初の三田会として設立されました。メンバーは、ここ 10 年間、外交官、マスコミ、国際交流基金、国際協力機構、商社、メーカー、作家、イスラム・アラブ研究者および他の民間企業といった多様な分野から常に成り立っています。

塾員のモットーである談論風発の気風を尊重しながら、塾員同士の親睦をはかり、また当地エジプトの地域の発展と社会貢献を心掛けております。

西東京市三田会への期待

H03 医 中村 邦彦

三田会は社中協力ということで慶應義塾をサポートする一助となるとともに、塾員同士の交流・親睦の場となるものであり、西東京市三田会はこれを体現しています。しかし会員の平均年齢上昇が、いつも課題となっているのも事実ではあります。

私事ですが、大学を卒業して四半世紀が過ぎ卒業年度三田会に出席、また高校、学部関連の慶應義塾の会に呼ばれることも多くなり感じたのは、近年は情報社会で異業種間交流にて情報を共有しようという人たちの増加が若い世代を中心に見られることです。三田会には多種多様なバックグラウンドをもつ方が多く在籍しており、わざわざ異業種間交流会などに参加せずとも有益な多くの情報が共有できるのは間違いのないでしょう。

今後このような観点での会員間の交流も今後付加されることにより若い世代の取り込みの問題も解消され、西東京三田会のさらなる発展が得られるものと期待しています。

友人とのウォーキング会のおすすめ

S39 工 長沼 善紀

工学部応用化学科 39 年卒の有志は毎月 1 回ウォーキング会を楽しんでいます。定年を過ぎた頃に健康的な集まりをやろうということでウォーキング会を始めました。

どうせやるならば東京近郊在住のクラス仲間と奥様方、そして学生実験でお世話になった山本憲子先生もお誘いし、今では平

均 15～16 名(うち女性は 5～6 名)が楽しんで
います。行先は都内、近郊の庭園、野
山、溪谷、景勝地など。昼は芝生にシート
を敷き、皆で車座になって弁当を食べ、夕
方は二次会を楽しみます。

会社では社長とか専務とか言われて威張
っていた連中もすっかり学生時代に戻って
ワイワイガヤガヤと楽しんでいます。我々
のウォーキングはただ歩くだけではなく、
皆と楽しく語り合い、友情を深め、青春
(青春とは心の若さです。)を楽しむこと
に意義があります。奥様同士もすっかり親
しくなり、皆と楽しんでいます。こんなク
ラス会はいかがですか。

“ウォーキング過ぎし日のこと語り合う
友等の顔は青春の輝き”

麻雀会に参加して

S46 法 原 洋一

以前から塾との繋がりを持ちたいと思っ
ていたので会員募集があった 8 年前に本会
に入会しました。

サークル活動には、ゴルフ会、ハイキング
会などに参加していますが、特に麻雀会に
は熱心に参加しています。大学 1 年春に友
人から麻雀を教えて貰ってから、学生時代
は授業そっちのけで日吉の駅裏、三田校舎
裏の雀荘に通いつめていました。最近ハ
麻雀する頻度が少なくなり寂しいと思っ
ていた処、久住眞太郎さんが“麻雀会”を平成 24
年に立上げて下さり、勇んで参加しました。
私の麻雀は典型的なツキ麻雀ですが、テン
パイ時のわくわく感とドキドキ感がたま
らなく楽しいと感じています。特に 3 大会連
続でツキが続いた平成 26 年に年間優勝し
た時は最高の気分を味わえました。

現在は、3 強(牛島康郎、高梨勇一、光山
哲夫各氏)の一角を崩すことを願って対戦
しています。これからも麻雀の醍醐味であ
る興奮と刺激を求めて参加したいと思っ
ています。

B 級グルメへの雑感

S45 法 原 護

1960 年代に上京して現在に至るまでに、
ほぼ継続して行っていることがある。アカ
デミックなことでもなくまたスポーツ等を
楽しむのでもなく、それは間断的にラー
メンに代表される B 級グルメの価値観に共
感を覚え、放浪してきたことだ。学生時代
は阿佐ヶ谷と荻窪の間はかなり阿佐ヶ谷寄
りに住んでいたが、荻窪にはラーメンの
有名店が数多くあったので、わざわざ、
授業への遅刻も厭わず、荻窪経由で学
校に向かったことが幾度となくあった。
社会人になってから情報の輪も広がり、
情報誌等も充実していったのでさらに活
動も活発になっていった。最近そんな記
憶がよみがえったので、たまたま手元
に残してあった、西東京三田会が創立
される少し前の、昭和 57 年(1982 年)
に文芸春秋社から発行された「くりま」
という旬刊誌を開いてみた。当時の東京
のラーメンの名店 102 店を、「くりま」が
推奨しているページがあった。35 年前
の当時の有名店ばかりで、店の前には
かなりの行列ができていた記憶がある。
ちなみにつけ麺店や、塩ラーメンの店
はこのときは未だ推奨されていない。
102 店は今に残っている店も多々ある
が、消えてしまった店も相当数ある。
残るにしろ、消えるにしろ原因を考
えることは、大変興味深い。

今回初めて気が付いたのだが、郊外のお

店に比し銀座、新宿、池袋の流行歌に出てくるような繁華街のお店は残っている店が少ないことだ。消えてしまったお店の味覚や、店内の雰囲気を使い出しつつ、社会の変化は人の多く集まることから始まるのだと、今回あらためて実感させられた。

慶応との思い出でいえば、「ラーメン二郎」が三田の校門の近くにあった。「くりま」のコメントに「ただのラーメン（210 円）に卵、豚肉が入ると各 30～40 円増し。大盛全部入りは 320 円、味は若い男性向き」とある。このコメントのとおり当時の店主のおじさんは、黒く汚れた白衣を着て、満員のお客さんのオーダーをすべて暗記していた。間違わないのか心配したほどだ。またお客さんはすべて男性で女性のお客さんは、当時一度も見かけたことがない。この二郎店は 35 年後の現在、のれん分けされた店が各所に見られるようになっていく。廃業した二郎店もちろんあるが、西東京市では、ひばりが丘のパルコの近くにあり、いつも行列ができていて盛況である。

学生時代と違う光景は、若い女性の方がかなり多く並びの列に見られるようになったことだ。この業界もやはり社会の縮図を反映しているようだ。

近い将来には西東京三田会も女性の会員が大幅に増加しているだろう。

西東京三田会のホームページ

S43 経 樋口 明朗

私は、なんとなく流れのなかから、現在の西東京三田会のホームページ(以下「HP」)の作成から運営管理までを一手に行う役まわりになってしまっている。私がかたま案的なものを提示したら、委員の皆さんが

そのままここに乘っかってしまっていて現在にいたっているというのが実情である。

裏側には問題点をいっぱい抱えている。会専用所有物として購入していただいた専用 PC は、2015 年 7 月にマウスと無線 LAN 子機を合わせて 40,000 円の FUJITU の LIFEBOOK だが、Windows7 だったものを Windows10 には私がした。ところが、マウスも LAN 子機も Win10 時代に適合しないもので、自費で買ったものに替えて使っている。また、実装メモリが 3GB と少なく、警告が頻繁に出る。Office に相当するプリンストールソフトは KINGSOFT で、不安で使用できない。メールソフトは Mozilla Thunderbird で、ここにメールアドレスを作り、HP 材料は殆ど全て隣に置いてある自分個人の PC で加工処理し、この専用パソコンに送り込んで HP 作成ソフトのホームページビルダーだけを運用するようにしている。要は余計なメモリを消費しないように注意しているというのが実態である。まずこのハードがいずれの時期かに行き詰まることが目に見えている。

ホームページ公開のレンタルサーバーは、ホームページビルダーサービスの 10GB プランを使用しているが、なしくずし的に私個人の考えで作られている「活動積み上げ式」コンテンツが、いろいろな面ですでに問題を露呈しだしている。容量の面では、いずれ 10GB では不足事態が起こるだろうということは予想されるが、この点は単純に 1 段階上のプランに契約変更すれば済む。

しかし、一番問題はシステム構成、コンテンツの考え方を充分包含しての全体のシステム設計上の精緻さを欠いており、そのためにすでに更新の際余計の手間を労したり、更新すべきところを見逃していたり、というようなことは日常的に発生してきている。

ファイル名の付け方にも全く全体を見据えた一貫性がなく、これでは冒頭の継続性担保問題どころではなくなっている。

それに加えてまだ問題がある。私の作成能力は IBM ホームページビルダー時代から大きく進展しておらず、その後進んだ CSS とかワードプレスのような簡便構築システムとか JavaScript、Flash あるいは PHP などという域についていけない。自身で不満足であり、学習・研究はしているものの思うに任せられないところが多々残っている。

いまは私の能力の範囲内で成り行きに任せてやらせていただいているというのが実態であるが、将来この HP の引継、リニューアルが話題になるときは、まず全面的「作り直し」を余儀なくされるだろう。それだけ今の西東京三田会 HP は属人的になってしまっている。

三田会での現役時代

S36 政 弘津 力

平成 5 年 2 月田無三田会の集合写真に、私が写っている。四代会長になられた田中清氏と以前から面識があり、そのご縁で誘われたと記憶している。

その頃私は、まだ勤めをしており、総会と懇親会に出席をすればよいと思っていた。ところが、五代目奥村氏、六代目高梨氏の代になったら活動範囲が激増した。

高梨会長が就任された頃は、ちょうど私も勤務を辞めていて時間的には余裕のある状態で、手伝いを頼まれるといやとは言えない状態になってしまい、他のほぼ同年配の人たち数人と一緒に会のお手伝いをするようになった。

活動内容が多様化されるに連れ、諸会合への参加の勧誘や出席確認等に多大の時間がとられることになった。当然私達も人数合わせのためもあり諸会合に参加をして、また奥村前会長、高梨会長(当時)にもハイキング等の諸行事にご参加頂いた。

任期一覧表によれば、私は副会長職を九年間務めさせて頂いたことになっているが、その後半から現在に至っては優秀な、経験豊富な人たちが参加され、頼もしい限りである。

今後は体調の許す限り、当会の行事に参加できればと考えている。

オーダーメイドツアー

S62 経 町田 栄一郎

会社の宣伝になってしまうかもしれませんが、「好奇心大歓迎！あなたの行動範囲を広げるお手伝いします」をコンセプトとするタクシー・オーダーメイドツアー(ツアー)企画実施経緯について書きたいと思います。

弊社は、昭和 30 年創業のタクシー会社です。ツアー企画の経緯は、平成 26 年東京都中小企業団体中央会のグループ戦略策定・展開支援事業に FM 西東京と一緒に応募したことから始まります。これは、地元企業が連携して新しい市場を創造するものです。これもユニバーサルタクシーを始めた時と同様に、徐々に広げてゆきたいと思っています。

これは、西東京市を起点とし、地元の魅力を伝え、そして体験して頂くことを趣意とし地域観光資源を集約、周遊ルートの開発を進め西東京ユニバーサル・ツーリズム(その後オーダーメイドツアーへ名称変更)市場を創造してゆくものです。

慶應義塾大学競走部 100周年に向けて

H8 経 松本 洋平

大正6年(1917年)に創部した競走部は、今年100周年を迎えます。

スポーツ推薦制度を有していない中、これまで日本選手権やインターカレッジなどで優勝者・上位入賞者を数多く輩出するなど、「陸の王者慶應」として、総合力でその名を轟かせてきた名門です。

昨年行われたリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックには競走部出身の選手が2名参加しました。

山縣亮太君(平成27年卒)は男子100m走で準決勝に進出し、4×100mリレーでは第一走者を務めて銀メダルを獲得。パラリンピックに参加した高桑早生君(平成27年卒)は女子走り幅跳び(T44)5位入賞、女子200m(T44)7位入賞、女子100m(T44)8位入賞と、出場種目全てで入賞を果たしました。

このようにトップレベルで活躍する選手を輩出する一方、塾の皆様から競走部に頂く最も多い声は「正月に慶應を応援したい」というもの。新春の風物詩である東京箱根間往復大学駅伝競走(いわゆる箱根駅伝)への出場です。

我が部は大正9年(1920年)の第一回大会に出場しており、以来第13回大会では総合優勝を果たす等の結果を残して参りましたが、近年は予選会敗退が続いており本選への出場は出来ていません。最後の出場は第70回大会(平成6年)であり、私が大学2年生の時になります。当時、私が競走部のジャージを着ていると街で次々と塾OBから声を掛けられ、箱根駅伝が特別な存在である

ことを実感致しました。

この度、創部100周年を迎えるに当たり、競走部では箱根駅伝に向けた強化を本格的に行います。そのために日体大OBで社会人の名門である日清食品グループの保科光作氏を監督に迎え、選手の強化及び有力な新人獲得等に取り組んで参ります。

近い将来、Kマークのユニフォームを箱根駅伝でご覧いただけるよう、現役・OB一体となって力を尽くして参ります。

どうぞ今後とも慶應義塾大学体育会競走部の活動にご注目下さい!

慶應大学薬学部 KP会西武支部について

S51 薬 三角 節子

慶應大学薬学部は2008年に慶應義塾と共立薬科大学が合併したことにより開設されました。共立薬科大学は1930年に共立女子薬学専門学校として創立し、1949年の学制改革により薬科大学となりました。それまでは女子大でしたが、1996年に男女共学となりました。キャンパスは港区の芝公園に面していて、目の前に増上寺、東京タワー、東京プリンスホテルが見える好立地です。現在は慶應大学芝共立キャンパスとなっています。

KP会とは慶應(共立)のKとPharmacyのPを意味し、旧共立薬科大学卒業生と慶應大学薬学部卒業生で組織する同窓会の名称です。最初は専門学校の同窓会として1935年に設立されましたが、合併に伴って名称を変更しました。KP会西武支部は小平市、西東京市、東村山市、東久留米市、清瀬市を地域としています。現在は年1回の講

演会などの活動を行っています。

私は S51 年に共立薬科大学を卒業し、現在も薬剤師として働いています。長年、KP 会西武支部で他の仲間と一緒に活動してきました。1 年前に西東京三田会に入会させて頂き、色々な活動に参加したいという希望と KP 会との連携も出来たらと思っています。どうぞ宜しくお願いいたします。

こんな街歩きいかが？

S49 政 皆川 雅紀

30 年前にこの会の創設にご尽力され、またこれまでこの会を育てるためにご苦労された方々に厚く感謝いたします。30 周年には及びませんが、私は 15 年間 23 区の隅々を歩いています。ここ 2 年は気軽な隠居生活ですので週 2 回は出掛けています。医師から運動不足を指摘され、でも単調な運動はしたくないと思ってる方に、15 年飽きずに続けている私の街歩き術をご披露します。

そもそもは手に入れた 100 通りの散歩コースが掲載された地図と名所旧跡のガイドブックを基に丹念に歩き廻るところからスタートしました。しかし複数回訪ねるとさすが飽きてしまいます。次に江戸時代の地図を基に歩きました。暫くするとそれも卒業です。そこで次からどういう散歩をするか少し悩みました。実はここからが本題です。

目的のない散歩は面白くありません。散歩の醍醐味は自分でテーマを作って歩くことだと気が付いたのです。何でも良いと思います。他人から見れば馬鹿馬鹿しいことでも自分が楽しめれば十分だと思います。何しろ健康に良い事を交通費だけでいくら

でも楽しめるのですから、思い切って無駄な事にチャレンジしてください。紙数の都合でひとつひとつのテーマの説明はできませんが、今迄取組んだテーマと現在進行中のテーマを掲げますので、ご興味があれば参考にしてください。

*都内にある各国の大使館(約 120 ありま)を巡りました。

*例えば「外苑東通り」「明治通り」など東京中心部の名のある道路を歩きました。

*「徳川将軍家・大名の墓」という本に掲載の大名のお墓がある 170 ヶ寺を訪ねました(千人以上のお墓をお参りしています)。

*山手線の線路に沿った一番近い道だけを歩きました。内回り、外回りと 2 回楽しめます。

*現在進行中なのは区界歩きです。始めたばかりでこれから 2~3 年かかると思いますが、23 区の全ての区界を歩くつもりです。道路や川が区界とは限りません。家と家が区界で、片方の家に A 区、もう一方の家に B 区の住居表示が貼ってあるのを見付けて喜んだりしています。

それと正月には七福神巡りをお薦めします。都内に 20 数箇所ありますが、一種の大人のスタンプラリーで、正月の運動不足解消に持ってこいです。今年は目黒にある山手七福神で女優の名取裕子さんをお見かけすることができました。これも七福神の御利益です。

気軽なイベントで会員を増やそう

S46 工 宮本 敬一

今回この原稿を書くにあたり、個人的記録を当たってみたら 1994 年 5 月 13 日(金

曜日)ホテルプライズで開催された懇親会に参加した記述が残っていた。西東京三田会のホームページによればこれが田無・保谷三田会合同後初の総会だったらしい。開催案内を頂いて地元の塾先輩にどんな人がいるか興味を持って参加した覚えがある。その後、年一度の懇親会に出たり出なかったりの会員だったが 2005 年のある日、奥村会長(当時)から役員になってくれないかとの電話がかかり固辞するも最終的に引き受けてしまった。丁度その頃、西東京三田会は全日空見学支援など地域貢献活動を活発に推進し始めた時期だった。私もこの活動の一環として小学生に宇宙開発の話をしたことがあるが、聞き手の興味を探りながら話すのは難しいと思った次第。社会貢献活動ができるもの多彩な顔ぶれが増えてこそ。まずは気負わず、気軽に参加しやすいイベントで会員を増やしては如何だろうか。

東京三田倶楽部と私

S50 商 三輪 昭夫

私は帝国ホテルにある東京三田倶楽部に入会して 25 年になります。倶楽部の会員は約千人で、他の三田会とは違います。現在は千人より少なく、今なら慶大出なら誰でも入会できます。入会金は我々の時よりかなり安くなっていて、二人の保証人が必要で、一人は私になり、もう一人はすぐに見つかります。入会されたい人がいれば、現在の入会金を詳しく調べます。年会費は 6 万円です。営業時間は午前 11 時半から午後 10 時半、土曜日、日曜日は通常営業はしてなく、土曜日は貸館となり同期会、クラス会をやることができ、一人倶楽部のメンバーがい

れば、何人でも一緒に入れます。日曜日、祝日は休館です。

倶楽部全体は約 80 人入れます。倶楽部は委員会がいくつかあり、我々で自主運営をしています。私は国際交流委員会に所属しています。毎年 6 月に留学生招待会をしています。他の催し物としては木曜例会等いくつかあり、木曜例会は著名な方を招いて講演して頂きます。慶大出身の方とは限りません。床の絨毯は慶大の三色旗を模した絨毯が敷いてあります。飲食物は安く、例えばビール一杯 300 円です。世界中の銘柄があります。昼は酒はありますが、食物は限られます。

福沢諭吉の日本初の倶楽部、交詢社が年配の人が多く、若い人が入りにくいということで、東京三田倶楽部は定年制にしました。でも今は定年制はありません。

私は、高校は高田馬場の戸山高校で、受験がいやでローマのチネチッタ映画撮影所に 2 年半居ました。日本へ帰ってから慶大に入りました。東伏見に 62 年間住んでいます。

西東京に繋がった私事と、そして三田会

S35 医 村田 高明

本年は、私にとって昭和 52 年に世田谷区から旧保谷市に越して在住 40 年になり、人生の約半分をこの西東京市で過ごした事になった。引越の理由は慶応産婦人科医局人事で、48 年から和光市の国立埼玉病院産科婦人科に赴任していたので、特に産科では夜間緊急に呼び出される事が多く対応可能な職住近接の為であった。しかし、55 年から 7 年間は国立栃木病院に単身赴任した為、概ね週末のみの帰宅の生活、そして 62 年か

らは自宅から通勤可能な東京都関連病院に異動になった。

ところで、この地区との繋がりには以前から縁があったといえる。我々の時代は医学部卒業後に1年間のインターン制度があり、その後に国家試験があった。私が当時の中野組合病院でインターンの時に、指導医の佐伯(昭 8)先輩に半ば強制的に慶応産婦人科に入局させられた事、また慶応産婦人科在局中は無給であった為、当時は当直バイトせずには生計が成り立たない状態で、主として慶応の関連病院の佐々産院(当時)や田無病院に世話になっていた。

そして、保谷田無三田会には平成8年入会。将来の進路を導いてくれた恩師の佐伯先輩との再会ができ、そして医学部先輩の光山、故早川、故金会員のみならず会員皆様に優しく受け入れて頂いた。入会後には、奥村会長や当時の坂口市長の好意によりライフワークの漢方医学からみた健康講座を2度、高梨会長の日中友好協会でも1度開催して頂いた事、またNews Letterの発刊に際し、健康欄に連載させて頂いたが、中村会員が入会されてからは担当を引き継いで貰う。西東京三田会活動の柱である社会貢献として市民公開医学講座などをと考えた事もあったが、地区医師会活動との競合懸念から断念している。現在、当会には医学部会員は光山、橋詰、中村と私の4人のみであるが、市内には隠れ塾員が何人か在住している。また塾員ではないが医学部同窓会の三四会員も数人居り、その一人である徳洲会武蔵野病院長との接点も併せて、皆さんに健康情報を提供できる会員が増える事を念じている。

30は面白い数字です

S25 経 山崎 忠

田中元会長様のお勧めで会に加えて戴いたのは何時でしたか、思い出せません。ブルーベリー摘み会しか出席しないでお役にも立てず、申し訳なく思っております。

さて、創立30年の30は面白い数字です。というのは、素因数分解出来る、即ち、素数だけを掛け合わせて出来る数字です。それも2(一番小さい偶数唯一の素数)、3、5と小さい順に掛けてできる数字です。干支にすると、2番目は丑、3は寅、5は辰と力強く並び、それを、2+3+5とすると10、10番目は酉というのがオチです。

30年が力強い素数のような役員の方々を力を合わせたことによると御礼申し上げ、今後の発展を願って、駄文のむすびとさせていただきます。

「言葉」「ことば」「コトバ」について

S34 経 吉岡 徳二

こもんじよ古文書に深入りして10年が過ぎた。江戸時代に武蔵野地域を吹き荒れた農民一揆、この事件を詳細に書き残した名主たちの記録を読解することにある。文書はおいえりゆう御家流ぎょうしよ言われる行書で記されている。驚くのは名主達の識字の量とその運用能力の高さである。彼等はこの国語力をどのようにして手に入れたのか。

歴史を空海・弘法大師に遡ってみる。唐での佛教経典の研究から、その能力、精神力、智識の正確さを認められて真言密

教を直伝する榮譽を受けた。ここでは言葉を超えて曼荼羅という佛・菩薩の図像で表現した絵図で「理智不二」を伝えることにしたのである。

日本の書き言葉には漢字、ひら仮名、カタカナを自在に組み合わせ文化がある。簡体字を導入して漢字文化を捨てた中国、発音記号のハングルに特化した韓国・朝鮮、そこからは書き言葉によってもたらされる文化と発展は期待できない。

文字を読み書くことから思考し、論理を展開し、国民共通の認識・情報を進化させて行く。絵図・図像はこれを補って余りあるものとなるのではなかろうか。

西東京市でもう半世紀以上

S25 経 吉田 耕司

この西東京市（当時は保谷町）に新居を建てたのは、世帯を持った昭和 33 年でした。昭和 44 年から札幌・名古屋と転勤し、保谷に定着したのは昭和 49 年からです。

定年後、自宅近くの文理台公園でラジオ体操をやっているのを知り、入会してもう 30 年近くになります。この体操会で知り合った方のご紹介で、山岳連盟にも入り、百名山の半分以上を歩きました。

平成 24 年に心筋梗塞を起してから運動を控え、今は福社会館で「へぼ碁の会」を楽しんでいます。

三田会ではハイキングやグルメ会、麻雀会などいろいろ楽しませていただきました。

60 年安保で国会突入

S37 経 渡辺 康生

手当の魅力に惹かれて生協に入り、学生生活の大半をそこでの活動で過ごした。

始めの頃の生協は三田の本部、日吉、小金井（工学部）、四谷（医学部）の支部を合わせても女子職員が数名勤務しているだけ。塾生が経営と業務を全て仕切り、売場にも出ていた。私は書籍部に配属、売店に立つ他、神田の取次店へ仕入れに行ったり、教材等取り扱いの指定をいただくため、先生方をお願いをしたこともあった。

慶應生協の業容は政府の所得倍増政策を大きく上回るペースで年々拡大して、営業の実務は専従の職員に移り、我われ塾生理事と学生委員は経営と組織活動に専念するようになる。大学生協連合会の全国大会では他大学の開催会場に出かけたこともあった。

昭和 35 年。折から、60 年安保闘争のさ中、日本国中が騒然としていた。連日、各地にデモ隊が繰り出し、国会周辺にも押し寄せた。塾生も他大学に劣らぬ動員数で、三田山上から行進した。

そうした中に参加して迎えた 6 月 15 日。旧チャペルセンター前から議事堂に向かった集団が、正面左手の通用門を押し開け国会の敷地内になだれ込んだ。罵声と怒号の中、学生が殺されたとの話が伝わる。東大生、樺美智子さんの死だった。

直後に発行された週刊誌のグラビヤ写真。議事堂の門に入る群衆の中央に虹をイメージした 7 色の旗、下部に「慶應義塾生活協同組合」とある。旗竿をたどれば捧げ持つ私の顔がはっきりと写っている。

周りの人たちに心配され、自身も不安に

なって、当時の生協理事長で塾の常任理事だった松本正夫先生（文学部教授）を訪れた。先生は、「塀を乗り越えたのではないのでしょ」と、笑ってくださった。

あの時の松本教授の柔和なお顔が、今も目に浮かぶ。

祝 30 周年

S52 工 渡辺 康隆

西東京三田会が今年で創立 30 年を迎えるとの由。それはそれでお目出度い事ではあるが、ちょっと考えてみると自分は保谷市(現在の西東京市)に住んで 34 年になるので、少し先輩になる。「こっちのほうがちよっと上じゃないか。」

西東京三田会に参加させてもらったのが 2 年前。それまでは地域三田会というとなんとなく「お年寄りのお茶飲み会」の印象があって、いくらか距離を置いていた。参加したら、その印象は正解だった事がわかったが、距離を置く理由にはならない事も同時に感じた。それどころか現在は理事まで引き受け、会の中心で活動する事になった。

自分がこれまで楽しんできた趣味がいくつかあるが、これらを会の仲間と一緒に楽しめたら良いなと最近は思うようになってきた。登山、スキー、自転車(ロードレーサー)、バイク、天体観測...、等があるので、今後会の皆さんと一緒に楽しめるようにお声がけしてみようと思う昨今である。



村田高明会員の墨絵

諸資料

奥村榮吉さんの回顧記

[News Letter 7 (2010.12.20)所収の<三田会の方々>より]

田無三田会が発足したのは昭和 62 年 3 月である。私が入会したのは平成 2 年 4 月である。もう 20 年以上も前の事になる。当時は田無駅北口の「末広」に 1 年に一回集まっているだけであった。もちろん田無と保谷の合併前なので「田無三田会」と云っていた。最初の頃は 15 人程度。増田純一さん、田中清さん、曾根原良仁さん、坂口光治さんなどはその頃のメンバーで、今でも元気に会に来られている。

だんだんメンバーが増えて、平成 6 年から会場をホテルプライズンに移している。この頃は斉藤毅さんが幹事として全てを取り仕切っておられたので、一度当時の状況を詳しくお聞きしておくほうが良いと思う。

平成 13 年から「西東京三田会」となり、旧保谷地区の素晴らしい方が続々と入会された。(故)斉藤達さん、増田純一さん、市川昌夫さん、田中清さんが歴代の会長をされた。私が会長を拝命したのは平成 13 年 5 月から平成 17 年までの間である。最初の会に集まっていたのは 20 人~30 人位だったと記憶している。

私は皆さんにニヶ月に一回役員会を開きましょうと提案した。というのは慶應義塾塾員課から卒業生の名簿を貰うと、当時市内に 890 人の塾員が居り、努力の仕方によっては会員の増強が可能であると考えたからである。幸いに保谷市市議会でトップ当選した石毛茂さん、田無市市議会でトップ当選した蔵野雅章さんがいらして、その二人が会員募集を強力にしてくれた。また市報とかタウン紙にも広告を出した。お陰で 1 年後の平成 14 年 5 月の総会には 47 名の方のご出席を頂いた。

そこで、会長は任期を 2 期 4 年としそれ以上は重任しないこと、及び次の会長は 4 歳以上若い人とするとの内規を決めた。どうしてもこのような会は役員の高齢になることを避けたい為である。

任期中の 4 年間に、私が常に叫んでいた事は「会員同士の親睦の会だけではこの会の存続意義は無い。西東京市民の為になることを、慶應義塾の為になることをして行こう」という事である。

後者については、平成 15 年 4 月に東久留米に在住しながら当会の会員であった、金田政也さん、山本永一さんが中心となり「東久留米三田会」を結成してくれた。弟の三田会の誕生である。これで先ず一つ慶應義塾に貢献する事ができた。また西東京稲門会との交流も盛んになった。衆議院議員の松本洋平さん、都議会議員の石毛茂さん、市議会議員の蔵野雅章

さん、そして西東京市長の坂口光治さんと顔ぶれが揃ったときもあった。

問題はもう一つの地域への貢献である。とりあえず地域の方々を対象に次のような講演会を開催した。

①15年3月に中田勲さんが中心になってコール田無で「グルメを支える食品と安全」についての講演会。

②15年12月に田中清さんと弘津力さんが音頭を取って、会員の村田高明さんの「冬に向かっての健康－特に東洋医学から」の講演会を社会福祉法人田無の会「たんぼぼ」で開催。

③16年4月に坂口光治さんのご努力で、社会福祉法人干曲会「健康園」で村田高明さんの「東洋学」の講演会3つともいずれも100人以上の市民が集まり盛大であった。しかし、単発的であり継続性のない催しであった。

一方同好会の責任者が決められ、この方々が競って活躍されるので会員同士の同好も盛んになった。①15年10月、西東京三田会としてのゴルフコンペ 担当大平一さん②16年1月、コール田無でのダンスパーティー 担当高梨勇一さん和田実さん③16年2月、ハイキング担当中田勲さん 石毛茂さん④16年2月、カラオケ大会 担当中野秀夫さん⑤16年2月、グルメの会 担当鈴木條吉さん⑥16年3月、写真展 担当直井徹也さん⑦16年6月、会報「三田会ニュースレター」の発行 担当直井徹也さん という具合であった。

平成17年5月に私が会長を辞め、次に会長になられた高梨勇一さんが中野秀夫さんと一緒になって素晴らしい地域貢献事業を始められた。ANAの羽田機体整備工場の見学会である。市内の小学5年生を対象としてバスで羽田に連れて行くというのである。市の教育委員会、各小学校とも大喜びの企画である。もう5年以上も続いており通算1100人以上の生徒が参加している。私はただ地域貢献をしようとラッパを吹いているだけでした。それを高梨勇一さんが実現してくれたのである。心から嬉しくなった。

此処で特に名前をお書きしていない人も大勢いる。これ等の方を含め三田会に入会していろいろな方との交流ができた。いまはそれが私の財産の一つになっている。

西東京三田会 会則

(目的)

第1条 本会は、会員相互の親睦と相互扶助を図るとともに地域社会に貢献することを目的とする。

(名称)

第2条 本会は「西東京三田会」と称する。

(会員)

第3条 本会の会員たる資格を有する者は、慶應義塾の塾員及び共立薬科大学の卒業生にして、西東京市内及び、その近隣に居住または勤務する者とする。

(加入)

第4条 本会の会員たる資格を有する者は、別に定める加入申込書に入会金と年会費を添えて申込むことにより本会に加入することができる。

(脱退)

第5条 会員は、会長に申し出ることにより、本会を脱退することができる。

- 2 会員は次の場合に脱退する。
 - (1) 会員たる資格を喪失した場合
 - (2) 死亡した場合

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
 - (2) 副会長 1名以上
 - (3) 幹事長 1名
 - (4) 副幹事長 1名以上
 - (5) 理事 若干名
 - (6) 監事 2名
- 2 本会に顧問を置くことができる。

(役員の仕事)

第7条 会長は、本会を代表し、本会の業務を総括する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代理する。
- 3 幹事長は、副会長を兼務し、本会の業務を全般的に掌理する。
- 4 副幹事長は、副会長を兼務し、幹事長を補佐して、幹事長に事故があるときはその職務を代理する。
- 5 理事は、本会の業務を分担して掌理する。
- 6 監事は、本会の業務及び会計の状況を監査し、その監査結果を総会に報告する。
- 7 顧問は、本会の運営に関して会長に意見を具申する。

(役員の仕事等)

第8条 役員は総会において選任し、または解任する。

- 2 役員の仕事は2年とする。ただし再任を妨げない。

(総会)

- 第9条 総会は、通常総会及び臨時総会とし、会長が招集する。
- 2 通常総会は各会計年度終了後、3ヶ月以内に開催する。
 - 3 総会の議長は、その総会に出席した会員の中から選出する。
 - 4 総会は次の事項について議決する。
 - (1) 会則の変更
 - (2) 前年度事業報告及び収支決算
 - (3) 当年度事業計画及び収支予算
 - (4) 役員を選任又は解任
 - (5) その他運営に関する重要事項

(組織)

- 第10条 本会に役員会を置く。
- 2 役員会は、会長、副会長及び役員全員をもって組織する。
 - 3 会長が役員会を招集し、議事を進行する。

(事業)

- 第11条 本会は、第1条の目的を達成するために次の事業を行う。
- (1) 講演会、懇親会の開催
 - (2) スポーツ、趣味、同好会等サークル活動
 - (3) 会報の発行
 - (4) ホームページの開設と運営
 - (5) その他本会の目的を達成するために必要な事業

(慶弔)

- 第12条 本会の会員が逝去されたときには、弔電により弔意を表わす。
- 2 本会に格別の功労があった会員については、役員会の決議により、生花または香料を贈ることが出来る。

(事務局)

- 第13条 本会の事務局は、西東京市内の事務担当者宅に置く。

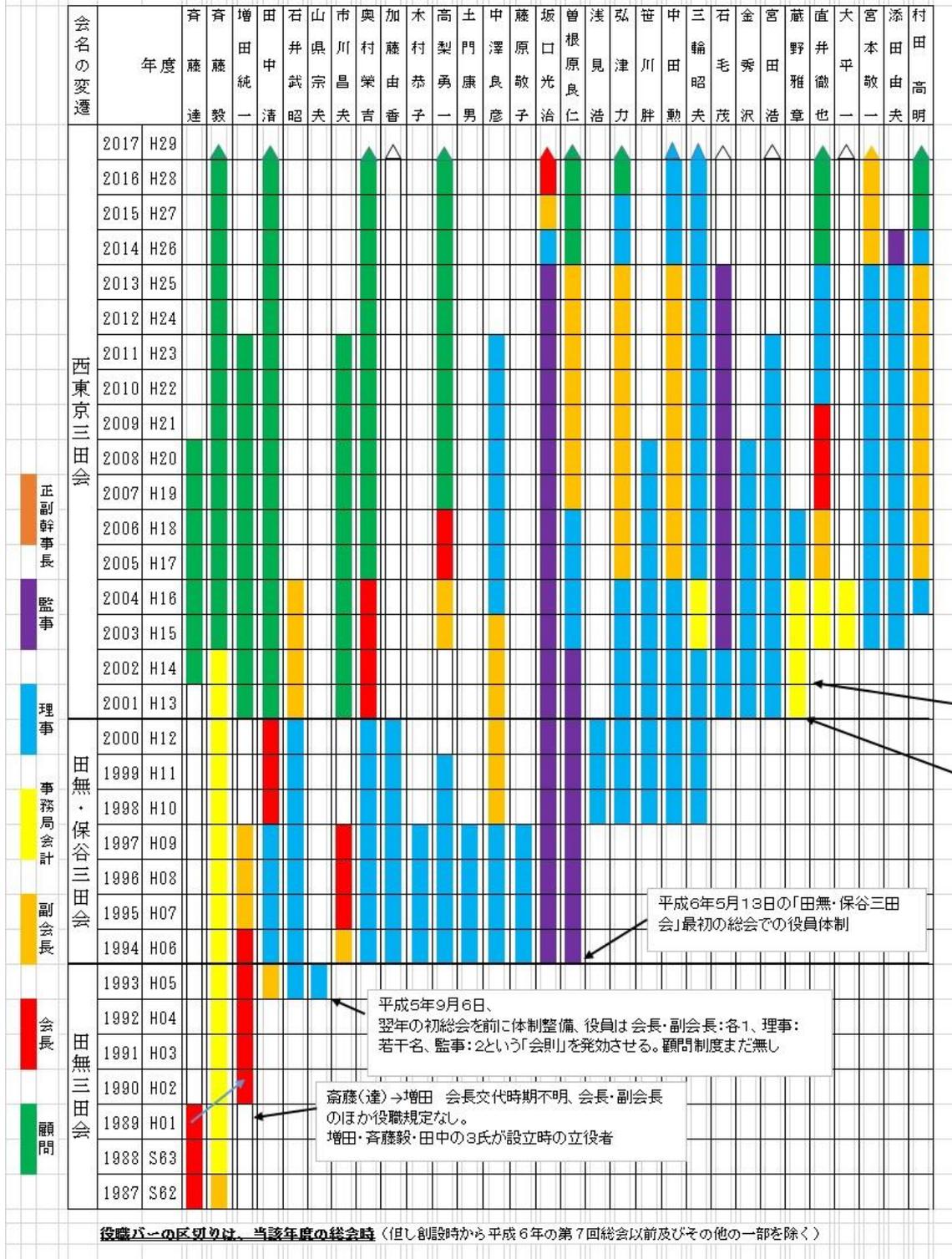
(会計)

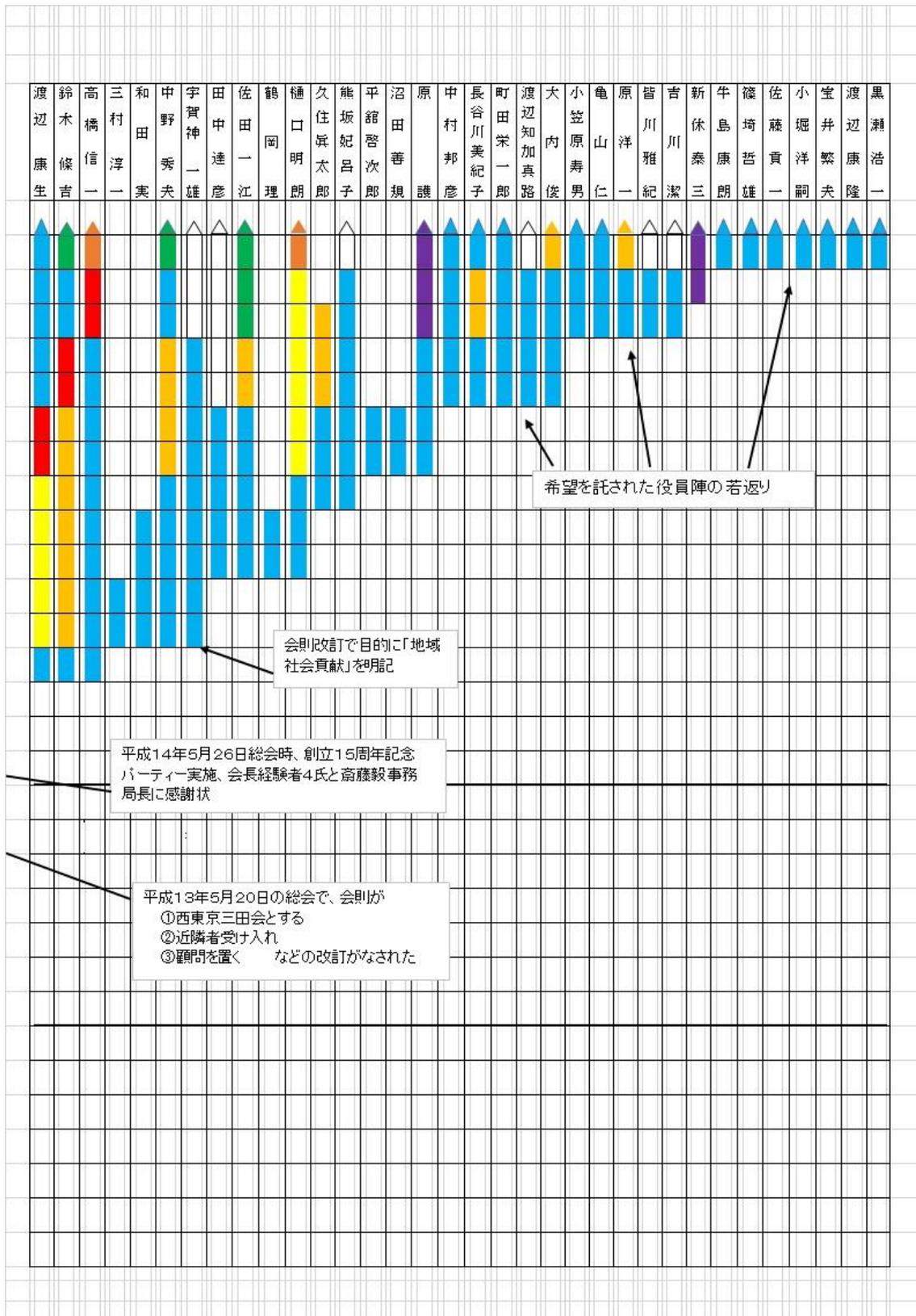
- 第14条 本会の経費は、年会費・入会金及び寄付金その他の収入をもって充てる。
- 2 年会費及び入会金の細目は別途役員会にて定める。
 - 3 本会の会計年度は4月1日より翌年3月31日までとする。

附則

- (実施の時期) 本会則は、平成5年9月6日から実施する。
- (一部改正) 平成13年5月20日に一部改正
- (一部改正) 平成15年6月1日に一部改正
- (一部改正) 平成17年6月5日に一部改正
- (一部改正) 平成22年6月20日一部改正
- (一部改正) 平成27年5月24日一部改正
- (一部改正) 平成28年5月22日一部改正

歴代役員任期一覧表



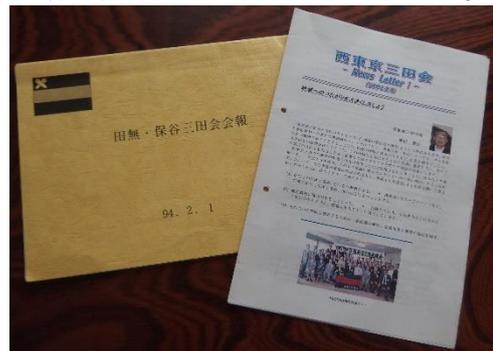


西東京三田会の広報活動

広報活動については、会報紙、三田会通信、及びホームページを媒体に行っております。それぞれの経緯を振り返り、現状を紹介します。

会報

最初の広報紙は平成6(1994)年2月、「田無・保谷三田会会報」として、以後平成12(2000)年8月のもので4回発行されました。齋藤毅当時の事務局長のご尽力によるものでした。内容的には通常総会の報告に関係することが主になっていました。



平成16(2004)年6月、現在のNewsLetterに衣替え、記事・体裁ともに今日の形になりました。当時の奥村榮吉会長の肝いりで大平一事務局長が立ち上げ、直井徹也現顧問が尽力された後、現在の高橋信一幹事長が主催する編集委員会のメンバーに引き継がれています。当初は年1回の発行でしたが、平成23(2011)年から年2回刊となり、現在に至っております。

三田会通信

会員に限らずに西東京三田会にメールアドレスを提示している方向けの情報提供手段として、平成24(2012)年9月にメールマガジン「西東京三田会通信」初号を配信しました。以降毎月15日定期的に配信されています。樋口明朗副会長が、少しでも早く西東京三田会の動向を関係者に知っていただきたい想いで、行事の予定や開催された行事の報告を新聞記者的に情報提供しているもので、今に続いており2017年3月は55号となっています。

ホームページ

平成26(2014)年12月に、ホームページを開設し、今日に到っております。

会行事、サークル活動等の予定や実施報告の適時更新、会報や議事録などの閲覧等、西東京三田会の全容が判るように努めております。

内容のさらなる充実と、運営体制を確立することが今後の課題です。

URLは <http://nishitokyo-mitakai.net/>。

「西東京三田会」検索でもトップにできます。



2017年（平成29年）4月現在の役員

役員会役員(会則 第6条 第1項)			
会長	坂口光治	S55・経	写真・作品展
副会長	原洋一	S46・法	ゴルフ
	宮本敬一	S46・工	地域社会活動、ブルーベリー
	大内俊	S57・経(院)	イベント、ニュースレター
幹事長	高橋信一	S47・工	副会長を兼務、第10代会長、事務局、ニュースレター
副幹事長	樋口明朗	S43・経	副会長を兼務、事務局、会計、歴史散歩、HP
理事	中田勲	S36・工	前副会長、ハイキング、地域社会活動
	渡辺康生	S37・経	第8代会長、30年誌
	長谷川美紀子	S38・薬	前副会長、グルメ
	牛島康朗	S40・政	
	篠崎哲雄	S46・工	
	佐藤貢一	S48・経	
	小堀洋嗣	S50・工	
	三輪昭夫	S50・商	
	宝井繁夫	S52・商	
	渡辺康隆	S52・工	
	小笠原寿男	S57・経	HP, グルメ
	町田栄一郎	S62・経	HP、イベント
	黒瀬浩一	S62・商	
	中村邦彦	H03・医	
	亀山仁史	H08・経	
監事	新休泰三	S41・経	
	原護	S45・法	麻雀
顧問(会則 第6条 第2項)			
	斎藤毅	S23・経	会創設時副会長・事務局長
	田中清	S28・工	第4代会長
	奥村榮吉	S27・文	第5代会長
		S29・経	
	高梨勇一	S34・政	第6代会長
	直井徹也	S30・経	第7代会長
	曾根原良仁	H03・政	元副会長、歴史散歩
	佐田一江	S33・文	元副会長、歴史散歩、たけのこ掘り
	村田高明	S35・医	元副会長
	弘津力	S36・政	元副会長
	中野秀夫	S38・経	元副会長、地域社会活動
	鈴木條吉	S44・政	第9代会長

西東京三田会会員名簿

(平成 29 年度期初 4 月 1 日現在)

安部 泰利	荒居 隆行	荒居 美香	石毛 茂	伊勢 尚一	伊藤 道明
稲木 雄一郎	稲月 喜一	井上 京子	上杉 さなゑ	上原 好子	
宇賀神 一雄	潮田 康郎	牛島 康朗	臼杵 洋一	内田 直之	大内 俊
大野 一美	大野 浩子	大平 一	岡田 紘明	小笠原 寿男	小川 末平
小川 智恵子	小川 恒雄	小川 秀則	奥村 栄吉	片山 啓子	
加藤 由香	金子 幸寛	鎌田 敏弘	亀山 仁史	賀陽 智之	川満 寛彦
北村 礼子	吉良 工	桐ヶ窪 実	熊坂 妃呂子	栗原 幸雄	黒瀬 浩一
古賀 卓夫	香西 邦雄	小林 哲男	小堀 洋嗣	齊藤 毅	斎藤 嘉久
坂口 光治	佐田 一江	佐藤 貢一	佐藤 裕	澤根 浩一	篠崎 哲雄
嶋崎 泰正	新休 泰三	鈴木 條吉	関野 和彦	荘 健治	曾根原 良仁
高梨 勇一	高橋 幸三	高橋 信一	宝井 繁夫	田中 清	田中 達彦
田中 正夫	谷 純一	田野倉 克郎	智田 秀穂	直井 徹也	中田 勲
中野 秀夫	中野 正道	中村 邦彦	長沼 善紀	並木 幸子	橋場 剛士
橋本 諭	長谷川 毅彦	長谷川美紀子	林 頼子	原 護	原 洋一
樋口 明朗	弘津 力	福田 秀一	星崎 治男	本多 則人	真下 幸文
増田 裕	町田 栄一郎	松本 光太郎	松本 洋平	丸尾 寿一	三角 節子
光山 哲夫	皆川 雅紀	三宅 純生	宮田 浩	宮本 敬一	三輪 昭夫
村田 高明	山崎 忠	横山 之雄	吉岡 徳二	吉川 潔	吉田 耕司
吉田 正輝	米倉 實	渡辺 知加真路	渡辺 康生	渡辺 康隆	渡辺 康人

(1 1 2 名)

編集後記

記念誌の発行を決める理事会で、その意義を問われて坂口光治会長は「温故創新」、と説かれました。その会議で組織された編纂委員会は、30年の歴史に学び、将来を展望する冊子の制作に取り組んで参りました。

清家篤慶應義塾長、比企能樹連合三田会長、近隣の三田会と西東京稲門会の各会長様から温かいお祝いの言葉をいただき、感謝に堪えません。会員の皆様からは思い出や今現在のこと、将来の展望など様々な記事を寄稿され、ここに足跡を記していただきました。

編纂委員会では、正確で漏れなくかつ読みやすい記念誌にと、努めて参りました。出来栄は兎も角、ようやく上梓の運びとなりましたことは、関係者の皆様のご協力の賜物です。厚く御礼を申しあげます。

30 周年記念誌編纂委員会

委員長

渡辺 康生 (昭和 37 年経)

委員

直井 徹也 (昭和 30 年経)

中田 勲 (昭和 36 年工)

大平 一 (昭和 39 年文)

樋口 明朗 (昭和 43 年経)

原 洋一 (昭和 46 年法)

篠崎 哲雄 (昭和 46 年工)

大内 俊 (昭和 57 年経・院)

小笠原寿男 (昭和 57 年経)

黒瀬 浩一 (昭和 62 年商)

西東京三田会 創立 30 周年記念誌

発行 西東京三田会

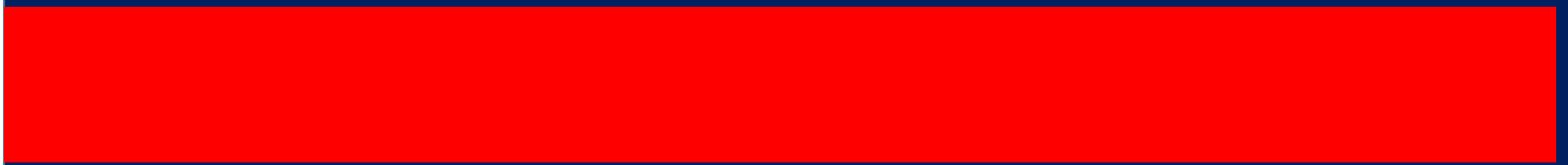
(URL: <http://nishitokyo-mitakai.net/>)

編集 創立 30 周年記念誌編纂委員会

印刷 オーロラ印刷株式会社

発行日 平成 29 年 5 月 20 日

(頒布価格 : 1000 円)



西東京三田会
創立 30 周年記念誌編纂委員会